

楽しいお買い物はマツザカヤ



能 楽 の 友

題字は熱田神宮 窪田宮司筆

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1000円

一部 70円

充実した演能を 昭和56年を迎える 能・狂言の心、を求めて

新玉の昭和五十六年、内外の政治、経済、社会のさまざまな現象は、一九八〇年代の初頭の年として大きな変化のなかで推移し、新しい年を迎えた。
多様化した現代社会の意識、価値感の崩折は、社会世相に強く反映し、構造的な変化とともに不透明さを強めているが、そのなかから新しい「第三の波」が台頭してきていることも事実である。
戦国の動乱のなから生まれた芸術的、思想的に熟成された能、狂言の哲学が、人々の活力を真の意味においてリクリエイト(再創造)する大きな役割がますます認識される時代になっていることを強く感ぜざるを得ない。それ

年頭のごあいさつ

能楽協会名古屋支部
支部長 井上松次郎

謹んで昭和五十六年の新春を寿ぎ申し上げます。
昨年中は、能狂言愛好の皆様には、当地能楽界のために多大の支援を賜り、能楽協会名古屋支部の主要な催能でありました熱田神宮祭奉納能、新能、大衆能、歳末助け合い義捐金募集能、さらに愛知県芸術祭、名古屋市青少年のための芸術劇場等の諸行事をつつがなう終了できましたことを衷心から感謝申し上げる次第でございます。

これもひとえに熱田神宮はじめ県、市のご後援、協会役員、協会員のご協力、愛好者各位の力強いごべんたつ、熱意こもるご支援のおかげであり、あらためて厚くお礼申し上げます。
新しく迎えました本年もまた各流による数々の催能はじめ、協会名古屋支部主催の諸行事が予定さ

謹賀新年
熱田神宮能楽殿
法人 熱田神宮能楽会
謹賀新年
熱田神宮司 篠田康雄
権宮司 長谷晴男

は、ともすれば「閉鎖」されたこの芸術の領域をいつそう広げる要素をもつていよう。
と同時に、新しい時代の変化に対応して、充実した芸術が強く求められている。好むと好まざるにかかわらず、代がわりの八十年代が能・狂言界に幾多の課題を提起していること直視していかねばならない。
ことし昭和五十六年の中部能楽界は、熱田神宮能楽殿を中心に数多くの催能が予定されている。観世会定式能は日曜能五回、土曜能四回、宝生会定式能四回はじめ、各会の演能、狂言も和泉流、大蔵流など五回の催能が予定され、また各流社中の大会などことしの演能にもまた期待がよせられよう。
本紙もまたこの一年、いささかなりとも能楽愛好者の友として進んでいきたい。いっそうのご支援をおねがいする次第である。

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

- 〔56年1月〕
3日(土) 能楽協会名古屋支部開初式 (関係者のみ)
7日(水) 学生能と狂言の会 (来場歓迎)
15日(祝) 名古屋清願会能 (来場歓迎) (番組③面)
25日(日) 青陽会定期能 (有料) (番組③面)
〔2月〕
1日(日) 宝生会定式能 (有料) (番組④面)
8日(日) 観世会定式能 (有料) (番組④面)
14日(土) 観世九草会定期能 (有料) (番組④面)
22日(日) 熱田紳士能 (来場歓迎)
〔3月〕
1日(日) 吉翠会大会 (来場歓迎)
8日(日) 大蔵狂言会 (来場歓迎)
14日(土) 観世土曜定式能 (有料)
15日(日) 梅猶会定期能 (有料)
21日(土) 観世流学生能 (来場歓迎)
22日(日) 泉楽会大会 (来場歓迎)
(演能変更の節はご了解下さい)

梅若六之丞 東京都中野区東中野2-16-14	幽詠会 片山博太郎	財団法人 橋香能会 梅若万三郎	観世栄夫	観世雅雪	観世元正 東京都渋谷区恵比寿南 1-21-14	名古屋観世会	鳳鳴会 武田太加志 武田志房	中日文化センター特別教室 観昭門会 昭世元昭	名古屋橋岡会 名古屋市昭和区丸屋町五ノ三五 山田紀子方
梅若盛義	山本観衛会 山本勝一 〒662 西宮市南郷町五ノ二二 電話(078)七三〇四七七八	幽花会 片山慶次郎 〒603 京都市北区小山下花ノ木町二一 電話(075)四九二一五三〇二番	大槻清韻会 大槻秀夫 大槻文藏 大阪市東区上町二番地	大槻清韻会 大槻秀夫 大槻文藏	井上嘉久 〒603 京都市北区紫野下島田町六	藤井久雄 完楽徳三雄 治人	名古屋淡交会 橋岡久共	上田観正会能楽堂 社団法人 観正会 上田照也	大西信久 大西智久 〒530 大阪市北区中崎西2丁目3-17
井戸良造 井戸和男 大阪府阿倍野区文の里4-24-17 電話(06)六二二二二二一九番	武田詠楽会 武田小兵衛 武田欣司 武田邦弘	武田詠楽会 武田小兵衛 武田欣司 武田邦弘	大西信久 大西智久	藤井久雄 完楽徳三雄 治人	藤井久雄 完楽徳三雄 治人	藤井久雄 完楽徳三雄 治人	名古屋淡交会 橋岡久共	上田観正会能楽堂 社団法人 観正会 上田照也	大西信久 大西智久

仕舞 山本真房 武田志房 発行は松書店、定価六千円。 前年度の互酬を位えてくわゆるも、同書の特徴のひとつである。 し込み下さい。締切り十二月二十三日まで。

演能案内

名古屋清韻会能

昭和五十六年一月十五日(祭)午前十時始

神歌 高田 武雄 加野昭二郎 高砂 高田 武雄 加野昭二郎 高砂 高田 武雄 加野昭二郎 高砂 高田 武雄 加野昭二郎

第二十四期・第四回 青陽会能

昭和五十六年一月二十五日(日) 午前十一時始

神歌 須部 南 高砂 殿島 修二 高砂 殿島 修二 高砂 殿島 修二 高砂 殿島 修二

Table with 4 columns: Name (e.g., 宝生英雄, 宝生英照), Address (e.g., 名古屋市東区新町下境52-1), and other details.

Table with 4 columns: Name (e.g., 内藤泰二, 藤雲), Address (e.g., 名古屋市東区本町二ノ五), and other details.

Table with 4 columns: Name (e.g., 菊扇会, 後援会), Address (e.g., 名古屋市東区南栄3-17), and other details.

知ってもらいたい ためでもあった。 〒602 東京都上野区北野上七軒 電話(五五三) 一三四二番

梅若修一

東京都左京区永観堂西町二〇 電話(五七二) 〇七六七番

長い間の原稿に厚く御礼申し上げます

能花 今沢 美和 (③面より青陽会能番組つき)
飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能熊 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能山 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能老 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能草子洗小町 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能竹生島 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能巴 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能東高 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能北砂 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能東高 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能北砂 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能東高 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能北砂 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能東高 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能筑紫奥 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能上 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能松 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能佐渡狐 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能野雲林 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能守院クセ 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能片山博太郎 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能片山博太郎 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能片山博太郎 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能片山博太郎 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能片山博太郎 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能片山博太郎 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能片山博太郎 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二

能片山博太郎 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
野村 又三郎 生駒 里翠 加藤 久清 保 弘二
後見 須部 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二
梅田 邦久 地謡 今村 修一 加藤 久清 保 弘二



大阪喜多会 和島富太郎
〒665 宝塚市宝塚一丁目12-1
電話(0797)8630

二井栄逸 松阪市内五曲町八八
電話(0598)231026

長田驍後援会 津市高野尾町三三五一四六
電話(0595)0697番

喜多流山本才 名古屋千種区願山町二二二
電話(782)2192番

麦の会 長田 梅田 久田 徹二
飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男

高安会 西村 欽也 名古屋瑞穂区仁所町二一四五
電話(八三二)五九一九番

高安勝久 西宮市名次町六一十二
電話(0798)9651

豊嶋十郎 二二七 松戸市下矢切五五
電話(0473)01982

宝宝生 弥一 東京都練馬区小竹町一の五〇
電話(03)9550479番

高安流岡同門会 岡治郎右衛門
清水 利宣 高坂 康弘 北野 晴藏 中川 湖舟 伊藤 久蔵 塩田 耕三 村山 利昭

谷田宗二郎 京都市北区衣笠街通町31-7
電話(075)495(05)495

九州高安流同人会 飯富 雅介 鬼頭 英二 筑 三男
飯富 良人 飯富 徹 大山 要二郎 山崎 俊輔 横田 富生

森森好会 常茂 好好 東京都渋谷区代々木四一三八一二
電話(03)37014609

福王輝幸 西宮市名次町六一十二
電話(0798)9651

江崎金治郎 電話(0792)0725番

江崎康雄 電話(0792)9711番

森田光春 京都市東山区八坂上町三七六

寺井政数 東京都世田谷区世田谷四一三二二五
電話(03)26676番

吳竹会 寛三男 森本重一

鬼頭季信 東京都中野区中央四一四七一
電話(03)819413番

幸圓次郎 東京都中野区中央四一四七一
電話(03)819413番

幸義太郎 東京都中野区九段二二二四
電話(03)3375672番

大倉長十郎 吹田市江の木町一六ノ一七〇二
電話(06)6375672番

大倉長十郎 大倉 正之助 電話(06)6375672番

住駒幸陽 住駒 幸陽 住駒 幸陽 住駒 幸陽

住駒幸陽 住駒 幸陽 住駒 幸陽 住駒 幸陽

新年おめでとございます。た。ますます元気で活躍を、共同社も礼之助氏はか皆健在であるよ鬼頭好信君(鬼頭喜太郎氏息・太)であった。大感流なごやは十周

新年おめでとごさいます。ます名古屋能界の進展と愛好者の皆様のご多幸をお祈りします。

新年号は五五年の回顧をしたいと思います。小さな展望でメモ風に、感嘆と傷心の交差に尽きます。が、大小の希望と願望の成就がないとは言えません。昨年もまたまことに多様な一年だったと申せましよう。

恒例の四行事(熱田神宮奉納能をはじめ新能・大衆能・義捐金募集能)と青少年芸術劇場・十二月に愛好者の会・学生能(二四回)婦人能などそれぞれ盛況であったことを始めにお伝えしたい。

演能は年々交り活潑であったが、ここ数年になく充実した年であった。見ごたえのあった美しい能・おかしみあふれる狂言が多

春夏秋冬

五五年の名古屋

野村広二

かかったと言以外、観・宝三流の愛好者が多い名古屋で、金春・金剛・喜多三流の能が例年になく上演されたことが演能を多様にし、楽しくおもしろくし、見る人の心を喜ばせた。そういう充実の年であった。時代の推移はあるにせよシテ方五流の能が見られることが何よりの事。それに一年を通じて能楽活動(能舞台ほか)に言外の活気を感じたこともあわせて特記したい。一つには名古屋も新時代に突っ込んだの現われであろう。稽古専心、よき舞台に懸命であられるよう望みたい。第一の特筆はこれ。

第二は井上松次郎氏(狂言共同社)の受賞と藤田六郎兵衛氏(笛・藤田流家元)の逝去である。記念狂言会の松次郎氏の木六駄は風格ある同氏狂言芸の高い頂点を示した。ますます元気で活躍を、共同社も礼之助氏ほか皆健在であるように。他方、藤田氏がなくなると名古屋も寂しくなる。名古屋の長老も薄くなった。新時代を迎え長老の方々の長寿と中堅・新進の能楽園守を重ねてお願したい。

藤田さんのことは本紙十二月号(五五年)に少しく追憶させていた。昨年の佳曲・佳島二十曲余りの約半数は同氏の曲。晩年の曲には時として鬼気迫るものがあった。荒いと言わないではない。流麗・優雅極まりない曲であった。なお放送(NHK名古屋)にはその開局前・テスト(大正十四年)の頃からの出演。名古屋の最少ない全国放送者(邦楽)であった。尾張侯から配領の家紋・大根巴(たいこんども)の由来は興味ある話ですがここでは割愛する。もその曲も舞台できかない。昨年

日のこと、また石橋も故く(長良川)鬼頭好信君(鬼頭喜太郎氏・太鼓)が無事道成寺(鼓)に出演。梅若盛彦君(のりひこ、盛彦氏)の狸も見事。また大倉源二郎君(大倉長十郎氏)自然居士・博太郎の曲もよし。

能では、熊野(元正)因幡(元昭)ほかみない三・四の曲があり、三輪(太加志、順序不同)で、松風(新・鏡之丞)山姥・天鼓(六之丞)杜若(関根祥六)敦盛(武雄)江口・自然居士(博太郎)江口・小書平調返(八幡藤田昭彦)自然居士は説法入りハツキ宝生(江口)平調返、英雄(安宅(本田光洋)道成寺(巖)に頼政(長田)・半部(久田)など佳曲の例。梅田邦久氏(斯道三十周年記念能)の活動も目立った。内藤泰三氏は秋の黒塚にいままで目に立つこと少なかったやさしさ・やわらかさが風情を添えて感銘をうけた。今年の宝生会

は東京・大阪に名古屋中心、この二つの中心(演能)が画く南側の広がり大きいことを祈りたい。三回の道成寺上演も記録したい。祝賀能・追善能も行なわれた。次に狂言は、松次郎受賞記念狂言会(七月)万歳追善会(九月)和泉流歴代宗家追善会(十一月)に朝日狂言会・やるまい会(越後

舞・又三郎、久々出る)皆々盛況であった。大蔵流などや会は十周年記念の会(小舞猿舞大蔵弥太郎に松・又・礼の小舞もあり、おもしろし)。河村丘道氏(和泉流)の追善狂言会も催される。狂言の笑いが名古屋でも現代の笑いにしみ込んで行く。奈須与市語・木六駄(松)釣狐・越後舞(又)歌大名(礼・友・弘)ほか佳。岩橋・鏡男も出る。三度の道成寺の鐘吊りもうまく動める。なお、鐘の音(千作)宗論(藤九郎・右近)小舞舞(元秀)首引(万之丞・万作・娘鬼野村信行)など強く印象に残る。

第三は、五四年に続く西村欽也氏(ワキ)の活躍である。ワキ方高安流追善能を盛大に催したことは意義が深い(道成寺・金剛嶽、ワキ高安流久八故家元高安流郎子、佳、ほか)立派であった。河村総一郎氏(大鼓)の芸も幅と深みがいや増し、数々の曲題を大きく高める(数盛・武雄、安宅・本田光洋、道成寺・泉嘉夫ほか)谷口喜代三氏の追善会も催す。一謡会・父河村証二主室と共催で。片や、若手は総一郎氏息・大(まさる)君が錦秋の東大寺能の小鍛冶(和島富太郎)に出演。十月十八

昭和56年1月放送予定

NHKラジオ第一放送 (毎週日曜日午前10時15分)

- 56年1月
4日(日) 観世流「老松」武田太加志ほか
11日(日) 観世流「小鍛冶」渡辺三郎ほか
18日(日) 観世流「実盛」木原康次ほか
25日(日) 観世流「浮舟」浦田保利ほか

NHK・FM放送 (毎週日曜日午前7時10分)

- 56年1月
4日(日) 金春流「難波」金春信高ほか
11日(日) 観世流「絵馬」坂井音次郎ほか
18日(日) 観世流「高砂」今井泰男ほか
25日(日) 観世流「高野物狂」上田照也ほか

NHK・教育TV1月15日(祝)午前9時~10時
【仕舞】観世流「笠之段」観世清頭「羽衣」観世曉夫、金春流「野守」桜間真理、宝生流「殺生石」宝生英照、金剛流「煎」種田道一、喜多流「鶴」粟谷明生
【楽舞】「笠沙楽」藤田次郎、大倉源二郎、仙良勝、金春和 [狂言小舞]「七ツ子」野村耕介、「京わらんべ」茂山あさり [ワキ語り]「隅田川」森常好
(放送予定につき変更の場合はご了解下さい。)

曲目の選定・見る側の希望について述べたかったが紙幅の都合で省く。
よい能と狂言を期待します。
春夏秋冬(五五・十二月号)の那那(富春日市右衛門)。しゅんち(春日)と読みます。参考までに。
文中の東大寺能とは、東大寺大仏殿前大修理落慶奉祝能のこと、十八日は観世剛喜四流(シテ方)。神楽式・金剛永継八ひさのり(三番三茂山千作ではじまる。金春流は別の日に、「観世」(五五・十二月号、徳江元正記)にくわしい。



Table with columns for names and addresses of various organizations and individuals. Includes names like 幸友会, 福井啓次郎, 福井良久, 福井良治, 柳原富司, 桂会, 後藤孝一郎, 山口亮, 龜井俊一, 保忠雄, 実雄, 谷口正喜, 三宅藤九郎, 茂山千作, 茂山千五郎, 名古屋和泉会, 狂言共同社, 葵心庵舞台, 楽諷庵舞台, 栄能楽舞台, 朝日文化センター, 小鼓後藤孝一郎, 野村又三郎, 善竹忠一郎, 茂山忠三郎, 狂言やるまい会, 野村又三郎.

高砂 北キリ 小沢喜一 地誌 辰巳 吉田 俊彦 本間 英孝 佐藤 耕司 主催 名古屋観世会 高安 藤久 千662 西宮市名次町六一十二 電話〇七九八〇九六五二 住 東京都練馬区東大泉町六一三三三 電話〇三(九二五)一五四二

名古屋観世九阜会

56年度定期能予定番組

名古屋観世九阜会(会主・観世武雄氏)の昭和五十六年度定期能予定番組は、本年四月五日(日)に喜之妻名披露能を熱田神宮能楽殿で開催する。

会場 熱田神宮能楽殿

◎初会 二月十四日(土)午後一時始

高木美智子 砂 駒瀬直也
北 西村 欽也 長谷川 章
狂 舞 舞 舞

能 東 高木美智子 砂 駒瀬直也
北 西村 欽也 長谷川 章
狂 舞 舞 舞

能 鈴 加藤 保彦 塚本 秀雄
木 西村 欽也 河村 総一郎 後藤 孝一郎 寛 三男

◎第二回 五月三日(土)午後一時始

高橋 謙一 長谷川 章 青木 武弘
吉田 妙 西村 欽也 鬼頭 英二 寛 三男
狂 舞 舞 舞

能 千 高橋 謙一 長谷川 章 青木 武弘
手 西村 欽也 鬼頭 英二 寛 三男
狂 舞 舞 舞

能 手 高橋 謙一 長谷川 章 青木 武弘
西村 欽也 鬼頭 英二 寛 三男
狂 舞 舞 舞

能のスケッチ・道成寺余録

能のスケッチ・道成寺余録

昨年から冬のことである。十一月東京都府町、金剛能楽堂へ行く。九月巖氏の班女をみたのでこの月の花筐・永蓮をみたかったからである。佳かった。私はいつものように検査店の席(四人掛)に陣取らせていただく。その日斜めうしろでしきりにスケッチをする青年があった。スケッチをする愛好者を見かけるのは久方振り。かつてここには須田園太郎画伯(故人)がワキ正面最前列で熱心に熱心に筆を走らせておられた。速い力強いタッチでぐっと心に迫る。いろいろな姿を描かれていた。岡田伯の大きなスケッチ画帖A5判位の大きな厚い本が田鍋惣太郎氏宅にあったことを覚えて話はこれが次のように続く。

同じ十一月名古屋芝田米三氏(独立美術)の画展が開かれてい

◎第三回 七月十八日(土)午後一時始

素謡 天 鼓 青木 武弘 加藤 保彦
有賀 澄子 西村 欽也 吉田 定男 藤田 昭彦
能 半 小林 喜久 観世 武雄 舞 舞 舞

能 女 花 西村 欽也 後藤 孝一郎 鬼頭 好信
観世 武雄 舞 舞 舞

◎納会 九月五日(土)午後一時始

素謡 井 筒 小島 芳雄 佐々木 勝輝
五木田 三郎 西村 欽也 後藤 孝一郎 寛 三男
能 通 小町 西村 欽也 鬼頭 喜太郎 藤田 昭彦
能 石 高橋 謙一 観世 武雄 河村 総一郎 鬼頭 喜太郎 藤田 昭彦
大獅子 西村 欽也 福井 啓次郎 藤田 昭彦
金費 全自由席一万円 457 名古屋南区元塩町一ノノ十七
申込みは出演者 加藤 保彦方
又は事務所へ 電話〇五二(六二)三六五九
電話〇五二(六二)三六五九
主事務所 名古屋観世九阜会
電話〇五二(六二)三六五九

邦誼会新年謡会 15日 栄能楽舞台

邦誼会(梅田邦久師主宰)は、一月十五日栄能楽舞台で新年謡会を開催。「泉清」(シテ西天養進)「求塚」(シテ小村富美子)「安宅」(有輪田鶴子)など十三番。午前九時始。

◎〔住所変更〕

大宮流大鼓方・鬼頭英二氏(新住所)愛知県中島郡平井町六輪御前地一・二の割四一〇 電話〇五六七四〇三一二三番

第2回観世寿夫賞 野村万之丞氏ら受賞

故観世寿夫氏の逝去を悼んで創設された「観世寿夫記念法政大学能楽賞」の第二回受賞者がこのほど選考委員会で決定、和泉流狂言の野村万之丞、写真家の吉越立雄の両氏が選ばれ、十二月十二日、赤坂プリンスホテルで授賞式が行なわれた。

表中につき 年賀欠礼致します

金剛流 豊嶋三千春
今井清隆
藤田昭彦
安福春雄
鬼頭八郎
喜太郎
好信
英二

た。初対面の芝田画伯、静かに展示室(丸栄スカイ)の中央の椅子に腰をおろす岡田氏に声をかけた。「お面にルネッサンスを感じ取ります。そのよき匂いを」「なるほど」それから二・三の話をしていくうちに「世阿弥の非風の是風」に移っていった。「それは高い遊びの境地とも言えまじやうが、名人でなければ佳き味がありませぬ」「そうですか」。大作「めざめる大地」(一九七九年)の構図・構想をほめた言葉であった。物静であるが敬虔(けいけん)ではげしい心を秘す岡田氏だった。あとで知ったが、芝田氏は若い頃前述の須田画伯(京都)に師事された山。須田さんのことを聞きたかったし話もしたかった。私の方は、朝日の裸体名画展(秋、松坂屋)ではじめて岡田伯の裸体画をみた感銘、「火」の画(谷川徹三先生

主な業績
・熱田神宮大祭奉納能 毎年一回開催、ハレの日に二十回ほど
・名古屋市青少年のための芸術劇場 毎年一回開催、いままでに

流元 剛行 金発 流本 世家 観宗
檜書店
〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291) 2488-9
〒604 京都市中京区二条通数屋町東入 振替東京 3-3552
電話(231) 1990 振替 京都 113

新年 賀 謹
伊 魚 節
豊橋市魚町18 電話(52) 5256
豊橋也留舞会連絡所 (山本浅太郎方)

新しい視力の見直し—オプトメトリー—
明けておめでとう ございます
新しい視力の世界を拓く、玉水屋のサービスをご利用下さい。
定休火曜日 営業 10時~7時
マガネの玉水屋
なごや・栄交差点北西角 ☎961-1826(代)

あなたに心をこめておくりする……
富士道の婚礼道具
家具の富士道
本社 名古屋市中区栄3丁目35番18号
ショールーム TEL 代表(262) 5547
工場 愛知県西加茂郡三好町 TEL (05613) 2-1178

社
名古屋観世九阜会
観世会土曜定式能(初回)

五月雅日記

萩のまぢ

絵と文 二井栄逸

かゝりける處に
長門の國へも
敵向うと聞きしかば。――

左近衛中將、清経は、内大臣平重盛の三男で典型的な平家の公達であつたが、平家都落ちのとき、幼い帝を奉じて西國におもむき、山鹿の里に籠つていたが、幾程もなく敵に追われ、豊前の國、柳に移つてからその皇居を定め、たつたが、敵は長門の國へも向つて来たので、安任の地をもめて海上にのがれ、今はこれまでも柳が浦に入水自殺してしまふ。修羅ものとしては清経の深い能である。

今年の正月は、長門、萩、津和野方面に旅をしたので、柳が浦の海岸に立ち寄り、清経の碑を尋ねて見たが、時間的に余裕がなかつたので、対岸の小島から遠望して長門に向つた。



能友随想

々へ渡る石の小橋には、それぞれに桁が高く持ちあげられていた。家々の台所には、川面まで降りられる石段があり、洗ひものは川の水で行なうのだと、板垣いがあるの外からは見えない。そのような作りも、すべて文化財法で勝手に作りかへることは出来ないのである。勿論、武家屋敷、石垣や土塀、家の造りもすべて昔のままの姿で保存されてゐる。萩の氷川川沿いの、とある家が萩焼の窯元の分室であつたので、立ちよることとした。抹茶を頂きながら主の話を聞き、作品を見せて貰つた。萩焼の窯元にも色々あつて、登窯(のぼりがき)で年三回しか焼かない巨匠の窯から、大暴生産をする電気やガス窯まで千差万別の窯元があるという。

茂山忠三郎師が受賞

昭和55年大阪文化祭本賞

大阪府、大阪府教育委員会、大阪府、大阪府教育委員会共催の昭和五十五年大阪文化祭受賞者として、能・狂言部門で茂山忠三郎氏(大藏流狂言方)が本賞を受賞、一月二十三日、大阪市東区の大坂コクサイホテルで贈呈式が行なわれた。受賞の対象は、昨年十一月二十

県・市に義捐金

能楽協会名古屋支部 歳末助け合い能

社団法人能楽協会名古屋支部は旧う熱田神宮能楽殿で恒例の歳末助け合い義捐金募集能を開催。愛好者の温かい義捐により盛況に上演されたが、その義捐金を愛知県ならびに、名古屋市にそれぞれ

観世武雄師 三世喜之を襲名

名古屋で4月5日披露能

観世流・観世武雄師は、このたび三世観世喜之を襲名することになり、その襲名披露能が三月七日東京・観世能楽堂で催されるのはじめ、四月に名古屋、五月に大阪はじめ各地で催される。

武田小兵衛師 喜寿祝賀能

3月15日京都観世会館

観世流シテ方・武田小兵衛師の喜寿祝賀能楽会が三月十五日(日)京都観世会館で、観世宗家による「翁」武田小兵衛師の「嬉捨」が上演される。

梅若盛義師 梅若盛義師 梅若盛義師 梅若盛義師

梅若盛義師 梅若盛義師 梅若盛義師 梅若盛義師

この公演は、「能を通じて日本文化を紹介し、日仏兩國間の文化交流をより促進する」ため後援会として企画されたもので、公演は

名古屋梅猶会番組

三月十五日(日)午前十一時始 熱田神宮能楽殿

忠 度 福王 輝幸 後寛 敏一 藤田 昭彦 間 佐藤 友彦

素袍 落 井上松次郎 佐藤 友彦

源氏供養 熊沢忠美子 西本平三郎 吉田 定男 福王 輝幸 岩城 雅晴 柳原 富司忠

山 姥クセ 岡田 朗詩 地謡 井上 重彦 井上 和男

天 鼓 西本平三郎 寛 敏一 藤田 昭彦 間 大野 弘之

附祝言 主催名古屋梅猶会 後援中日新聞

第二部(午後四時開演)

能 友 随 想

福原麟太郎氏と

能・狂言

英文学者福原麟太郎氏が逝去された。新春早々、一月十八日のことである。享年八十六才。ずっと病臥の山を新聞(朝日)の訃報ではじめて知った。さればこそ昨年NHKのはじめたシェイクスピア劇の放送にそのすばらしい感想がきけなかったのも道理とあらためて寂しさに胸につまった。

福原麟太郎(しばらく)という呼ばせていただきます。は能・狂言にも造詣(ぞうけい)が大層深い方であつた。この二つをこの上なく愛された。英文学者では戸川秋舟・平田亮木氏(共に故人)がそうであつた。亮木氏はフエノロサ教授(二代梅若実氏につく。故人)とつながりが深い方であつたこと、もう説明するまでもない。

福原麟太郎は、その著書が私たちに能や狂言をみる者にとって大切なことを数々教えて下さる本であると同時に、現在滞英また訪英の日本人の皆さんが彼の地で日英の文化を比較して語り合ひ、また日本の古典(文学・芸術)を説明される場合にも、なくてはならない書物・第一級の資料であることをお伝えしたい。そして後期・晩期の本には能・狂言の三・四の文章を必ず載せられた。

福原麟太郎の文章はどれもやわらかく、まろやかであるが、その実、眼光紙背に徹し、英知がちりばめられている。近年全集(全十二巻、研究社)を出されたけれど、戦後その本が出るたびに一冊一冊と買いためた。

昭和二十二年「英蘭的思考」をまず手にした。△英蘭的思考△が巻頭に。翌二十三年「英文学の旅」を。△イギリスの夢が目に付く(それから二十六年に外務省研修所の講演集を梓して「英文学入門」が出る)。このあと、唯今私が主治医のM医師より拝借中の「命なりけり」(昭三三)の中で、はじめて能の文章を目にする。△停年教授閑暇あり(昭三〇)△

了。受賞の対象は、昨年十一月二十

私も英文学を嗜ったが、福原教授の講義を一度拝聴させていた。立教の教室で名著・教習の文学を手にして。昔なつかしい。晩年は、奥野達也氏の懐懐(金剛流、昭四九)のとき同じ列の左端が福原先生、右端が私であつた。昔からのお顔付であつた。

著書から語録を少し。「新春の能は△翁△にはじまる」(命なりけり)。「花伝書の中に父親阿弥の最後の舞台を見た記憶を書きつけて、△老木△になるまで花は散らで残りしなり△と語っているが、私はこの言葉に深い感動を覚えた」(世阿弥生誕六百年)

「『能の成長』(昭五二)が最後の本である。これには△能△美しいもの△(水道橋金剛別会番組)はかがある。その後の著書には見当らない。なお、東京高師(のちに東京文科大学)のちに東京教育大)卒業後英国留学(昭和四)に先き立つては、中楽談義・花伝書ほかを岩波文庫本で携行されたことが「読書と或る人生」(昭四二)を眺むとわかる。この本には恩師岡倉由三郎教授の思い出・思慕がなつかしく描かれていて、これは「第三のクラブ」にも散見する。

△私の中の日本人△で見上の天心(覚三三)ともども恩師の東洋美術賞について(付、△不敏三東△でシニクスピア・シムペリンと班女について)執筆しておられる。さきに、その文章眼光紙背に徹すると申し上げたが、そこは珠玉の隨筆、読後感ほまことに言いようのない温かさに包まれる。塩梅のよさは言いようがない。温かそのもの、春風たいとうとでも言おうか、秋風烈日ではない。

昭和56年2月・3月放送予定

Table with columns for month (2月, 3月), day, and program details for NHK Radio and FM broadcasts.

重要無形文化財

第二十六回 中日五流能

三月二十九日(日) 名古屋・栄 中日劇場

第一部(午前十時開演) 自然居士 西村 欽也 谷口 正喜 森田 光春

大蔵流狂言 太刀 奪 茂山千五郎 茂山正義 茂山忠三郎

加実 盛 茂山 安明 茂山 安明 茂山 安明

芭蕉 蕉 茂山 安明 茂山 安明 茂山 安明

船橋 橋 茂山 安明 茂山 安明 茂山 安明

観世 元正 福王 輝幸 安福 建雄 藤田大五郎

玉之段 坂井 音重 坂井 音重 坂井 音重

藤田 戸 関根 祥六 関根 祥六 関根 祥六

船弁 慶 藤井 徳三 藤井 徳三 藤井 徳三

遊曲 宝生 弥一 谷口 正喜 森田 光春

第二部(午後四時開演)

田村 元昭 谷口 正喜 森田 光春

鶴之段 橋岡 久共 須部 章甫 長谷川 幸雄

遊柳 柳 上田 照也 地謡 加賀 喜一郎

野守 北 廣田 泰三 地謡 日比野 圭昭

塚 西村 欽也 河村 鉄雄 小寺 俊三

附祝言 主催 中日新聞本社 後援 文 化 庁

野村又三郎、石田幸雄の諸氏が参加した。

全山席 三千円 出演楽師宅又は熱田神宮能楽殿当日受付へ

年金のお受取りは名銀で

- 自動的に振込まれて便利です
- 共済年金の方もご利用ください。

名古屋相互銀行

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 藤田官司筆

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一部 70円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[3月]

- 15日(日) 名古屋梅猶会能 (有料)
- 21日(土) 親世流学生会能 (来場歓迎)
- 22日(日) 泉楽会大会 (来場歓迎) (番組①面)

[4月]

- 5日(日) 親世喜之襲名披露、九事会別会(有料) (番組①面)
- 12日(日) 親世会定式能 (有料) (番組②面)
- 18日(土) 邦楽会能 (要会員券) (番組③面)
- 19日(日) 泉楽会大会 (来場歓迎) (番組④面)
- 25日(土) 一福会・叶石会春の大会 (来場歓迎)
- 26日(日) 久田親正会春の会 (来場歓迎)
- 29日(祝) 幸友会春の会 (来場歓迎)

[5月]

- 2日(土) 親世九事会定期能 (有料)
- 3日(祭) 芳福会大会 (来場歓迎)
- 4日(休) 福楽会大会 (来場歓迎)
- 5日(祭) 福楽会大会 (来場歓迎)
- 9日(土) 福楽会大会 (来場歓迎)
- 10日(日) 青陽会定期能 (有料)
- 16日(土) 福楽会大会 (来場歓迎)
- 17日(日) 親世会土曜能 (来場歓迎)
- 23日(土) 親世会土曜能 (来場歓迎)
- 24日(日) 親世会土曜能 (来場歓迎)
- 31日(日) 親世会土曜能 (来場歓迎)

[6月]

- 5日(金) 熱田神宮大祭奉納能 (来場歓迎)
- 7日(日) 親世会定式能 (有料)
- 14日(日) 親世会定式能 (有料)
- 21日(日) 親世会定式能 (有料)
- 28日(日) 親世会定式能 (有料)

(演能変更の際はご了承下さい)

4月 喜之襲名披露能

能「草子洗小町」「小袖曾我」

親世流・親世流雄師の喜之襲名披露能は、本紙前号既報のように三月七日、東京・親世能楽堂で催されたが、名古屋では、四月五日(日)熱田神宮能楽殿で名古屋親世九事会主催で開催される。

番組は能二番、狂言、舞囃子、連時で、能は「小袖曾我」(十郎五木田武計、五郎・小島芳雄)、「草子洗小町」(親世喜之)。詳細番組は①面掲載のとおりである。

大蔵狂言会・なごや会は、三月八日熱田神宮能楽殿で第十一回狂言会を開催した。

「文相様」「金津」「以呂波」「青葉舞」「花争」「鐘の音」「文蔵」「二人侍」「鶏聲・古式」小舞十四番を上演。

なお今回は明春三月七日(日)に開催を予定している。

55年度「芸術選奨」決まる

文部大臣賞 中村 保雄氏 受賞
新人賞 野村万之介氏

演劇、音楽などの分野で昨年一年間に優れた業績をあげた人たちに贈られる五十五年度(第三十一回)芸術選奨文部大臣賞と新人賞が、三月二十五日午後二時から東京・霞が関の国立教育会館で行なわれる。

芸術選奨受賞者には、文部大臣賞、新人賞ともに賞状と賞金三十万円が贈られる。

授賞式は三月二十五日午後二時から東京・霞が関の国立教育会館で行なわれる。

賞が二月二十八日決定、大臣十二人、新人賞十一人が選ばれた。能、狂言関係の受賞者と授賞理由は次のとおり。

【文部大臣賞】
能楽研究者・中村保雄氏(六六) 著作「能面」で美術史ばかりでなく、能面の優品の系譜を跡づけ、広く芸能史の立場から洞察した。京都市北区等持院北町五八ノ九 東京都出身。

【新人賞】
狂言方・野村万之介氏(四〇) 狂言「花子」などでの堅実な技巧と的確な表現を示した。東京都豊島区南長崎六ノ五ノ四 東京都出身。

第11回大蔵狂言会

なごや会大会

大蔵狂言会・なごや会は、三月八日熱田神宮能楽殿で第十一回狂言会を開催した。

「文相様」「金津」「以呂波」「青葉舞」「花争」「鐘の音」「文蔵」「二人侍」「鶏聲・古式」小舞十四番を上演。

なお今回は明春三月七日(日)に開催を予定している。

演能案内

喜之襲名披露 名古屋泉楽会春季大会

三月二十二日(日)午前十時開曲

- 春日龍神 舞 親世喜之
- 養老 舞 賀子 後藤孝一郎 助川竜夫
- 半部 舞 深見一枝 幸田定男 藤田昭彦
- 実盛 舞 浅井健二 五木田武計 加藤保彦
- 遊行 舞 橋本とも 幸田定男 助川竜夫
- 巻網 舞 洪谷朝子 後藤孝一郎 助川竜夫
- 遊柳 舞 橋本とも 幸田定男 助川竜夫
- 熊野 舞 高木美智子 小島芳雄
- 巴 舞 佐藤千代子 幸太一郎 寛三男
- 望月 舞 塚田常子 塚本秀雄
- 鶴亀 舞 水野あや子 幸太一郎 助川竜夫
- 蟬丸 舞 奈倉早苗 後藤孝一郎 藤田昭彦
- 砧後 舞 芝村栄枝 幸太一郎 寛三男
- 恋重荷 舞 小森喜久 親世喜之
- 砧ノ段 舞 矢橋浩吉 後藤新蔵
- 葵 舞 上田中きん子 佐々木勝輝 駒瀬直也
- 猩猩 舞 森川みどり 西村欽也 吉田定男 助川竜夫

親世喜之襲名披露能

四月五日(日)午前十一時

- 笠ノ段 舞 佐々木勝輝 駒瀬直也 長谷川武弘
- 小袖曾我 舞 佐藤千代子 幸太一郎 寛三男
- 昆布 舞 井上松次郎 井上礼之助
- 熊野 舞 高木美智子 小島芳雄
- 歌行 舞 占キリ 小林喜久
- 西行 舞 白流 康
- 玉ノ段 舞 五木田三郎
- 羽衣 舞 有賀遊子 後藤孝一郎 寛三男
- 春日龍神 舞 駒瀬直也
- 占キリ 舞 小林喜久
- 白流 舞 康
- 五木田三郎 舞 五木田三郎
- 鬼頭喜太郎 舞 鬼頭喜太郎
- 寛三男 舞 寛三男

草子洗小町

子方 親世喜之 能
加藤保彦 正
長沼範夫 夫
高木美智子 子
吉田 妙
親世喜之 之

西村 欽也
河村総一郎
福井啓次郎
藤田 昭彦

附祝言

正面自由席 五、〇〇〇円
脇正面自由席 三、〇〇〇円

主催事務所 名古屋親世九事会
名古屋市中千種区元塩町一ノ一十七
(加藤保彦方)
TEL 〇五二一六二一三六五九

九月二十七日(日)

電話 68(5598) (代表)

五月雜日記

或芸術劇場で

絵と文 二井栄逸

大分前の芸術新潮に、フランス語の名優、ジャン・ルイ・パロの能楽記が掲載されたことがあった。それは、観世舞臺の半部が終ったところでパロが断片的に感想を洩らした言葉である。

「面(おもて)の傾け方や頭の挙げ方が実にすばらしい。演技的に完璧の域に達している。地謡いが、謡わないときは扇を床に置き、謡うときは扇を手に取る。そのとき謡う者の思考がすうっと立ち上がるように感じた。一ジョハキユウ(序破急)、というものが非常によくわかった。一足運び、というのはいくつか基本的な動作だ。人間が少くとも、そこには実にいろいろなことに注意しなければならぬ。非常にこまかい心理的な精神的なニュアンスがそこ

こに表現されてくるを得ない。能の足運びというものは非常に単純な歩き方ではあるが、それらを裏にみごとに要約している。

「衣装が実にすばらしい。やはりこういう能舞台で見なければ能のよさはわからない。たとえばパリのサラ・ベルナール座のような大きなところでは、いくらすくたものをやってもよくわからないのはあたりまえだ。

パロはたしかに能の本質的なものをよくみわけていた。それは演劇に限らず人間の追求する美がすべての国境を越えて共通するからである。表現する方法が違ってもすぐれた演技を見れば、その演者が今何をともめてそれがいかに表現しようとしているかを直感的に感じることが出来るからである。



る。元正氏は二十四回・十七曲。毎年出演。うち翁が二回、千歳は

またマルセル・マルソーが能を始めて見たとき、能にもっと動き(外見的)があると思っていたらしい。しかし、不動の中の動というものに深く学ぶところがあったと述懐している。そして、例えば私の動かない彫刻のパントマイムと、能の橋がよりを歩いてくる技術とは非常に共通性があるというのだ。

去る二月十四日、大阪府立労働センターで府の芸術劇場が開かれ、私も地謡の役があったので出かけられた。府民のための名曲を観る会なので府民力を入れてのせいかもしれないが、熱気が感じられた。私共の出番は第二部の最後であった。始めに大槻文蔵師の隅田川、次に善竹孝夫師の呼声、そして和島富太郎師の昇界(せがれ)であった。昇界坊という大層の天狗の首領が、仏法をさまたげようと日本に渡り、愛宕山の太郎坊と謀って登山を侵そうとしたが、その途中で高僧に折られ、神仏の来現に逢って逃げ帰ることを粗筋とするこの能は、鞍馬天狗、大会、車僧などと共に、天狗をシテとする名曲の一つになっていた。

芸術劇場で公演した昇界は、同じ昇界でも小書(こがき)といつて常と異なる演出(うしで、位(くら)い)も型も替り、ずつと重くなる。私共の流儀には、白頭よりも更に重い習とされている白昇界(しろせがれ)がある。

この日、和島師は、あの底力のある太い九い顔をすずかけの間に埋めるようにして、のっしのっしと唇をはなれてきた。黒の水衣の間からのぞく著附の厚板が、すこく豪華に見え、いかにも大層(めん)の山伏姿は、いかにも大層の天狗の首領といった堂々とした貫録でひびく立派に見えた。

シテが面をかけた舞う能を直視するといふ。能の作者は、人間の顔を遠慮会釈もなく否定してしまつた。人間の素顔を直視して能面に従属させてしまつたのである。能を無限の世界におしだす為には、たとえ現在物でもなまの顔であつてはならないのである。

中入後のシテには一段と重みが加わり、力のみならずのがひしひしと感じられる。大徳見(おうべし)み)、拾得衣と半切、白頭、という巨大怪奇のすがたであらわれ比叡山の僧に向かつて魔境と仏界、凡聖迷悟のことなどを堂々と説く。それは奇怪な怪物が示滅運動的に妖券を振りまいているようにも見えるのであつた。その時、ふと頭をかすめたのがマルソーの感動した不動の中の動。パロが賞賛した裏にみこに要約した尾の運び、ということではあつたのである。

最近の放送と本と催しについてお伝えします。落ちこぼれは許されたい。

放送。まず今年の一月から始めた「おんな太閤記」(NHK、日)冒頭「雲の小面」が(芳吉愛蔵)の四文字を付されて登場、最近ではこの四文字を見受けない。また初回とその後二回は狂言小謡「あまのり」がうたわれる。藤吉郎(西田敏行)も舞う。初回指導・野村万之丞の氏名がみえた(小面については後報したい)。

能楽の友愛読者招待

4月18日邦謡会能

能楽の友社では、昭和五十六年度の愛読者招待として、きたる四月十八日(土)熱田神宮能楽殿で催される「邦謡会能」に同会のご協賛を頂き、読者百名を無料にて招待いたします。

- 能「巻絹」(シテ清沢一政)
- 能「千手」(シテ今沢美和)
- 能「石橋」小書・大獅子(白・梅田邦久 赤・須藤甫)

(番組①面掲載)

優待申込みは、能楽の友社あて往復ハガキで申込み下さい。(返信用ハガキに必ず住所、氏名のご記入をお願いします)。先着百名の方に当社で優待印を押して返信ハガキをお送りしますので演能当日受付けにご提出下さい。

なおハガキは一葉につき一名ずつお申込みといたします。

耳目抄

放送と本と催し

閑寺小町・近藤乾三(宝生流)が放送される。三月下旬、上下二回で(NHK・FM)。

この曲は昭和三十年十一月にその前月、十月松岡弓川氏が舞われた同曲を三宅(のぼる、故人)氏の解説で同じくNHKから全国放送された。一時間の邦楽名曲選の時間。在局(NHK)の私も録音させてもらった。もちろん録音盤に。よかつた。故本田秀男氏(光澤氏父上、故人)から懇望されたことがあつた(弓川・同曲のパンフレットには須田国太郎師伯のシテ・ステッキがのる)。一昨年のことである。民放・FM愛知が近藤乾三・同曲(ハヤシ入り)を放送した。八回に分けて、毎週一回十五分ずつ。辛抱を要したが楽しかった。曲の季節は七夕。

「翁」がみられ、閑寺小町がきかれる時代となつた。

最近の放送と本と催しについてお伝えします。落ちこぼれは許されたい。

放送。まず今年の一月から始めた「おんな太閤記」(NHK、日)冒頭「雲の小面」が(芳吉愛蔵)の四文字を付されて登場、最近ではこの四文字を見受けない。また初回とその後二回は狂言小謡「あまのり」がうたわれる。藤吉郎(西田敏行)も舞う。初回指導・野村万之丞の氏名がみえた(小面については後報したい)。

二月は茂山千作氏(三回)登場。興味つきず(同・R)。

二月「現代に生きる」に野村万作氏。古典と現代、伝統芸能保持について(同・テレビ)。

古典講座・花伝書・馬場あき子開講中(同・R、日、二三月)。かつて閑吟集の講義も担当される。

二月「すばらしい仲間」に茂山千之丞氏出演。ほかにも木下順二・桂米朝氏と。狂言のよさが語られる。夕鶴のことも。またシエークスピア劇の舞台・落語の落ちとの比較もあり(CBCテレビ)。

観世会定式能(二回)

四月十二日(日)十二時半始

熱田神宮能楽殿

本、「因説・名古屋の狂言音楽」

能楽研究所、表章・後藤ゆう子氏および古川久氏の二論文のほかに、研究展望(八四五三・五四四)。

「観世」。五五・四月号に観世特集一覽、同年十一月に同年度別一覽表。殊に重要。

「一月と狂言師」(谷崎潤一郎、中公文庫、五六・一。作者と茂山千作八先代V一家の月見の宴。思わず引こまれおもしろし)。

「福原麟太郎博士のこと」(寿岳文章。博士の能・狂言愛好にもふれる。文学界三月号)。

催し。「黒川能」(森田茂、日展、中日ほか、愛知県美術館一一二月。付、昨年十一月東京で近作展、寺田千鶴氏の美術評(八東京、五四・一一・二一V)によれば、出品約六十点のうち三分一が黒川能とあり。なお「黒川能をみて」鈴木志郎康・詩人、東京、二・二四(関連)。

人形、狂言いろは、今西敏子(日本伝統工芸展。NHK会長賞受賞。西宮市在住。佳品。朝日はか、三越二月一三月)。

観世会定式能(二回)

四月十二日(日)十二時半始

熱田神宮能楽殿

本、「因説・名古屋の狂言音楽」

能楽研究所、表章・後藤ゆう子氏および古川久氏の二論文のほかに、研究展望(八四五三・五四四)。

「観世」。五五・四月号に観世特集一覽、同年十一月に同年度別一覽表。殊に重要。

「一月と狂言師」(谷崎潤一郎、中公文庫、五六・一。作者と茂山千作八先代V一家の月見の宴。思わず引こまれおもしろし)。

「福原麟太郎博士のこと」(寿岳文章。博士の能・狂言愛好にもふれる。文学界三月号)。

催し。「黒川能」(森田茂、日展、中日ほか、愛知県美術館一一二月。付、昨年十一月東京で近作展、寺田千鶴氏の美術評(八東京、五四・一一・二一V)によれば、出品約六十点のうち三分一が黒川能とあり。なお「黒川能をみて」鈴木志郎康・詩人、東京、二・二四(関連)。

人形、狂言いろは、今西敏子(日本伝統工芸展。NHK会長賞受賞。西宮市在住。佳品。朝日はか、三越二月一三月)。

四月十八日(土)午後一時始

須藤源氏

花 笹

鉄 輪

采 女

三回 六月十四日(日)

昭和五十六年度予定番組

主権名古屋観世会

当日券四千円

附祝言

盛 盛

須藤源氏

二月の舞台から

元正「老松」の閑雅

元昭「草子洗小町」の艶麗

竹尾邦太郎

例年通り観世会初回は宗家兄弟による二番です。そして相も変らず見所は立派の余地も無い超満員。未だ春霞の残影と人いさげで温気むんむん、涼気感を正させる雰囲気のないのは残念です。

「老松」。真ノ次第(大五郎・源二郎・源一郎・元信)でワキ西村敏也が赤上頭掛の大因鳥帽子に袴袴衣・白大口姿でワキツレ所謂赤大臣(飯富雅介・杉江元)を従え正中へ出て、大きく袖アシライをして右足をトんと踏で擦り上げると清茶の気分一気に漲り、如何にも閑雅なものです。

「草子洗小町」。藤井完治(真ノ一声でツレ)・藤井完治(出、小牛崎・小格子厚板・白大口・茶袴水衣のシテ(観世元正)が杉箒を持って出ます。直ぐシテ、ツ

趣を更に盛り上げ遺憾がありません。ワキツレの呼び出しでアイ所の者佐藤友彦長持で出て正中で居語りです。神妙な語りが観世の持味でしょう。

出端で幕が上るとシテが幕内に姿を見せません。観世は松がしを付け、濃い濃色の大口に袴袴衣は白地に龍鳳文様。露は黄色の太い縫ったものです。随分時間が経ったように思われましたが、幕を放れると一ノ松に立ち、サシ話から地との掛合のうちに両袖をたくし込んで舞台に入ると、正中で真ノ序ノ舞です。それは神さびた重々しいものではなく、寧ろ狂喜さの中に舞が、老松に飛脚が舞うのは戯れる気分が囁子にもたゆたうのです。大五郎の笛はあくまでも軽妙で、元信の太鼓は乾いたリズムを刻み、源二郎の大小以心伝心の微妙な間が舞みの因なんでしょう。

シテ元正の袖アシライと運びに慎重しやさがあって、季節に相応しいこの「老松」の気韻は、将に家元雲の風格です。(一時間四十分)

舞台の中に身体をぐらぐらぐらぐらと揺る揺る、あの空間(三四四方)が自分の中に住み込んでくしまっている。だから「演能中に何かりが消えても、舞台から落ちこたない。」

能、この不思議なる魅力

前田満穂

「能」に学ぶことは多いはず。歌舞伎役者より、新劇の関係者に能への関心が強い。うだね。雑誌「新劇」の三月号に早稲田小劇場の鈴木忠志が能についていろいろ云っている。例えば「能が幾百年も生き延びて来た特殊の一つは、身体的同質性をもっていること」つまり植物が環境に合せて身体をつくり変えるように、能役者は子供のころから、能

「能」に学ぶことは多いはず。歌舞伎役者より、新劇の関係者に能への関心が強い。うだね。雑誌「新劇」の三月号に早稲田小劇場の鈴木忠志が能についていろいろ云っている。例えば「能が幾百年も生き延びて来た特殊の一つは、身体的同質性をもっていること」つまり植物が環境に合せて身体をつくり変えるように、能役者は子供のころから、能

六分

「草子洗小町」替装束は昭和五〇年中日五流能でのシテ故梅若六郎・ワキ故松本謙三・主ツレ貫之梅若貞英(現六之丞)以来です。そのときは小町・六郎の恐懼、黒主・謙三の憎々しさが印象的でした。

今回はシテ小町に観世元昭。その豊潤な姿態にはワキ黒主・福王輝幸に歌道優位への妬心のみならず、恋慕をも抱かせているのではなにかと思わせる風情が濃厚に感じられます。

名宣笛(藤田昭彦)に乗ってワキ福王輝幸がアイ大野弘之を伴って出ます。ワキ名宣は老翁さきよりは寧ろ自己を正当化するために自己暗示にかけるような深く重々しい声調で、その心理描写は現代劇に通じます。

ついで大小(寛銀一・幸義太郎)のアシライで若女に白二枚襟・白羽扇・紅青段の唐織の豊潤なシテ元昭が三ノ松へつと出ます。正面を受けてのサシ話、明日に追った歌会に頭が一杯の腹に遠くへ陣を凝らして精神を集中するかの

ように、一語一句を噛みしめるように一首を詠むと、安堵の中に申入です。

一曲劈頭からの作劇術の巧妙がシテ・ワキがたっぷり組んで展開します。

ワキ・アイ問答は、アイが「不心得なる事に候へども」と簡単にワキに同意してしまふところにやや物足りなさを感じ、もう少しワキの意中を刺して積極的に対応する軽薄な気分が欲しいところです。

後場。美々しく着飾って名だたる歌入らが清涼殿に集います。替装束なのでシテの緋長袴が一際鮮烈な印象を与え、もみじを散らした唐織重折袴は十二単表もかくやと思わせる艶やかさです。主ツレ貫之(坂井重重)が正先の文台に膝行して短冊を取り上げると、音吐明々と披露します。身体を硬くして聞き入る小町。御感があって吻とするところへ間髪を入れずワキ黒主が古歌であると思えます。

手に扇左手に草子を持つと、地のへ梅の匂ひや交るらん、と扇を左右にさしまわし、地との掛合から面遣いし、更に地のへ袂も寒き水鳥の、と舞台を一巡すると、地との掛合は気分益々昂り、正先に下屋すると思を決して草紙を洗います。元昭のよさは思い切りのよさであり、こせついたところの無いことで、それが自信につながるのでしょう。

墨が流れて疑念の晴れたときの欣喜には玲瓏した様子が素直で、乞われて舞う中ノ舞には物着に主ツレも立会い、金色の女鳥帽子に紫地に赤白紫の下り藤文様の長絹を着け、緋長袴を裾と削いで舞う姿には驚りも昂りも無く夢見心地の風情です。

声量豊かな元昭・輝幸・音重の三者鼎立してのクライマックスに地頭藤井久雄以下の厚い地頭が絡み、おおらかな春うららの切まで見所を魅了しました。(一時間四十分)(五六年二月八日所見)

各地だより

久田観正会大会 能「安達原」など 久田観正会(久田徹二師)は、三月八日、上田観正会能楽堂で春の大会を開催。

素謡「撰待」「弱法師」「松風」など九番、舞獅子、仕舞など十四番。狂言「土筆」(茂山千五郎、茂山正義)番外能「安達原」(久田徹二)

昭和56年3月・4月放送予定

NHKラジオ第一放送 (毎週日曜日午前10時15分)

- [3月] 22日(日) 宝生流「高砂」今井泰男ほか 29日(日) 野球放送のない場合(能楽雅子集・藤田大五郎) [4月] 午前9時20分~10時5分(放送時刻4月から変更) 12日(日) 宮多世流「浮舟」栗谷新太郎ほか 19日(日) 金世流「羽衣」山本順之ほか 26日(日) 金世流「杜若」高橋汎ほか

NHK・FM放送 (毎週日曜日午前7時10分)

- [3月] 15日(日) 観世流「百萬」梅若六郎ほか 22日(日) 観世流「正草」観世喜之ほか 29日(日) 金剛流「景清」豊嶋弥左衛門ほか [4月] 4日(日) 観世流「安宅」観世喜之ほか 12日(日) 世同流「上野村」野村蘭作ほか 19日(日) 宝生流「船橋」浅見真高ほか 26日(日) 観世流「源氏供養」浅見真高ほか

NHK教育TV 3月21日(祝)「庵の梅」茂山千作・「武悪」野村万作(放送予定につき変更の場合はご了解下さい。)

外科・せいけい外科・皮膚、泌尿器科

東山整形外科

TEL 781-7835 東山公園駅下車 オークランドビル2F

城 割烹・小料理 ●熱田神宮能楽殿喫茶部 ●住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248 ●喫茶・グリル(愛労軒地下ビル) 電話 731-1128

流元 金剛 流元 流元 流元 流元

櫓書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291) 2488-9 振替東京 3-3552 電話(231) 1990 振替京都 113

蔵元直営 酒藏白龍 白龍本店 名古屋市北区深田町 電話 911-7572

能役

熱田神宮能楽殿での四月、五月の演能は、観世能、邦謡能、九

五月は、観世九郎会にはじまり 観世流・小島芳雄師の芳扇会大会

演能案内

久田観正会春季大会

三月二十六日(日)午前七時

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場
古屋若宮八幡社
各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)
名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

能楽の友

発行 能楽の友社
名古屋市中区千種千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
一 部 70円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

〔4月〕	
18日(土)	邦編会能 (要会員券)
19日(日)	壺泉会大会 (来場歓迎)
25日(土)	一福会・叶石会春の大会 (来場歓迎) (番組①面)
26日(日)	久田観正会春季大会 (来場歓迎) (番組①面)
29日(祝)	幸友会春の会 (来場歓迎) (番組②面)
〔5月〕	
2日(土)	観世九皇会定期能 (有料) (番組②面)
3日(祭)	芳詠会大会 (来場歓迎) (番組③面)
4日(休)	謡楽会大会 (来場歓迎) (番組③面)
5日(祭)	謡楽会大会 (来場歓迎) (番組③面)
9日(土)	やまやま会大会 (有料) (番組③面)
10日(日)	青陽会定期能 (有料) (番組④面)
16日(土)	観世昭会大会 (来場歓迎) (番組④面)
17日(日)	観世昭会大会 (来場歓迎) (番組④面)
23日(土)	観世昭会大会 (有料)
24日(日)	観世昭会大会 (来場歓迎)
31日(日)	鳳鳴会大会 (来場歓迎) (番組①面)
〔6月〕	
5日(金)	熱田神宮大祭奉納能 (来場歓迎)
7日(日)	清観会別能 (有料)
14日(日)	観世生会定式能 (有料)
21日(日)	観世生会春 (有料)
28日(日)	金 (有料)
〔7月〕	
5日(日)	豊朝日狂言会 (来場歓迎)
12日(日)	九皇定期能 (有料)
18日(土)	九皇定期能 (来場歓迎)
19日(日)	世竹謡 (有料)
26日(日)	観世謡 (有料)

人間国宝に宝生弥一氏 重厚なワキ方の演技

文化財保護審議会(小林行雄会長)は、四月三日、能ワキ方、宝生弥一氏(七九)を重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定するよう田中文化大臣に答申した。ワキ方 宝生弥一氏

本名宝生弥一、ワキ方光本敬一氏の長男に生れ、十一歳で名人といわれた宝生新に師事、謡、演技を通じて誠実、重厚な持ち味をみせる芸風はシテの演技を引き立て、ワキ方の技芸の本領を示す第一人者。とくに老女物は全曲を上演している。後進の指導育成にあたる。万円の支給される。

人間国宝は、伝統芸能、工芸技術で特に優れた人を選出して認定するもので、技術の研究や後継者育成の助成金として年間百五十万円が支給される。

昭和四十六年文化庁芸術祭優秀賞受賞、四十九年芸術選奨文部大臣賞、五十五年日本芸術院賞受賞、東京都練馬区小竹町一ノ五〇。今回の人間国宝は、宝生弥一氏のほか、歌舞伎音楽(長唄)の二世芳村五郎治氏(七九)、截金(きりかね)の斎藤梅亭氏(八〇)、刀匠・関谷正家氏(六〇)が認定された。

伊勢神宮春季神楽祭にあたり、太鼓方観世流・長生会(鬼頭八郎師)は、四月六日(日)内宮神楽能舞台で獅子、一調、鉦鼓など約二十番により奉納能を催した。

同会の奉納能は今回で二十四回目、明年は第二十五回を迎え記念奉納が行なわれる。

◆長生会

伊勢神宮春季神楽祭にあたり、太鼓方観世流・長生会(鬼頭八郎師)は、四月六日(日)内宮神楽能舞台で獅子、一調、鉦鼓など約二十番により奉納能を催した。

◆奉納能

伊勢神宮春季神楽祭にあたり、太鼓方観世流・長生会(鬼頭八郎師)は、四月六日(日)内宮神楽能舞台で獅子、一調、鉦鼓など約二十番により奉納能を催した。

定期能 多彩な演能 社中大会 4・5月の熱田能楽殿

熱田神宮能楽殿での四月、五月の演能は、観世能、邦謡会能、九皇会能、狂言やまい会公演など、有料能はじめ各社中大会が多彩に催される。

流泉会大会(四月十九日)は、能「半藤」「巴」半能「海土」の三番、二十五日の一謡会・叶石会大会は能「野守」、久田観正会(二十六日)は、半能「山姥」はじめ謡、舞獅子、一調など久田観正会あけての上演、二十九日の幸友会は、九世福井五郎二十七回忌追善大会で能「熊野」(観世流之丞)能「石橋」(辰巳孝)は、一調一謡「小督」に宝生英雄宗家など東西からの来演で盛況が期待される。

五月は、観世九皇会にはじまり、五月三十一日に予定される鳳鳴会大会は、中部地区に大きな足跡をのこした故武田宗治郎師の鳳鳴会が創設七十年を迎えるの記念大会。観世元正宗家もとくに来名、能「船弁慶」「藤戸」「恋重荷」の三番はじめ謡も「鶴起小町」「木曾」など重曲で会をかざる。

演能案内

謡会・叶石会春季大会

四月二十五日(土)午前九時半始

番外能	
野	守
唐	船
葛	大和
実	内田
藤	戸
野	宮
花	争
山	度
一調	老
歌	養
熊	弱
天	法
自然	師
杜	萬
胡	占
七	野
千	梅
田	田
小	邦
加	久
杜	占
藤	野
加	近
茂	藤
若	重
相	治
原	子
弘	花
池	池
谷	谷
定	池
子	谷
加	池
藤	池
定	池
子	池

久田観正会春季大会

四月二十六日(日)午前九時始

番外能	
須磨源氏	竹中義夫
舟	石岡和子
政	若山善子
花	玉木孝男
善	若山善子
知	若山善子
月	若山善子
入	若山善子
場	若山善子
無	若山善子
料	若山善子
・	若山善子
御	若山善子
来	若山善子
場	若山善子
飲	若山善子
迎	若山善子

見ているのだが、とても参考になるというのだが、さすがだね。彼に合せて身体をつくり変えるように、能役者は子供のころから、能

〔3月〕
22日
29日
〔4月〕
12日
19日
26日
〔3月〕
15日
22日
29日
〔4月〕
4日
12日
19日
26日
〔5月〕
3日

外 東

五月雅日記

氷雨降る夜に

絵と文 二井 栄逸

山蔭の雪深い破れ寺で
僧形がひとり しわぶきながら
ぶつぶつ呟いている。
あれは死霊と交わす三三つの時
刻
いつもの誂経の音が一段と低く
なる
無数の白骨から立ちあが
った
蒼白の陰形鬼
こちらは悪魔外道のふりあげた
血のりの汗
響き響きの声なき絶叫
ものみな雪に吸いこまれてゆく
男は既に息絶えている



耳目抄

来名の片山慶次郎氏は京都親世

説はか能面に関する六つの文章が
ある、保育社カラーブックス・五

不思議な力で客観的に能の根元に
迫ろうとしている。私どもが主観
的に能をほり下げようとするの
違つて、一個の能面を通じて丹羽
氏の詩ははたしてなく飛翔してい
くのである。
私は、氏の詩を読んでゆく内に
パントマイムを見ているような錯
覚さえ覚えたのである。そしてこ
れを素描でかいて見たいと思ひ、
写生帖をひっぱり出して、昔、家
元で写生したものや、博物館で見
たもの、神社等でスケッチしたも
の中からえらんでかいて見た。
勿論、丹羽氏の作品も写生させて
貰つた。
昔のすぐれた能面師は、年代に
よつて、神作(しんさく)、十作
(じゅうさく)、六作(ろくさく)、
古作(こさく)、中作(ちゅうさく)
等と分類されていて、十作に
は、日光、弥勒、夜叉、赤龍、龍

「能面詩」山の詩篇

丹羽征夫第二詩集近く発刊

これは、去年NHKテレビで
「能面と私」というテーマで紹介さ
れた詩人能面作家、丹羽征夫氏の
詩である。今度、自著の詩集「眼
玉」について、能面を対象にした、
「神々の庭」という詩集を出版さ
れることになった。
去年の暮だったか、門生のW氏
を通じて約四十篇の詩が出来たの
で、私にイラストをかいて貰いな
いかとの依頼があった。去年、氏
の能面個展を見て、その純粋さに
驚いたのと、能面打ちの詩人とい
うユニークさに興味をそそられた
のでお引受けすることにした。丹
羽氏は、無形文化財長沢春樹師を
父にもつ長沢草春師の高弟でプロ
の能面作家であり、現代詩の会の
相談役でもある。

詩壇初の能面詩集が早く発刊
される。著者は、詩人であり、ま
た面打ちとして知られる津市在住
の丹羽征夫氏で、本紙でも54年4
月号で同氏の能面展が津市で開か
れた機会に紹介したが、能面に魅
せられたユニークな詩人能面作家
として、その業績を位置づけよう
と、今回、はじめて能面詩第一期
が完成、発刊されるものである。
収められた詩集は、すべてムダ
な言葉を排除し、能面の持つ幽玄、
神秘性、呪術性をえぐり、その美
の奥底にある能の根元に迫ってい
る。
詩は、小面、若女、孫次郎、泥
眼、般若、大べし見、小べし見、瘦
女、大飛出、天神、翁、獅子口、泉
清、俊寛など三十七篇、このほか
山の詩五篇。
能面詩には、本紙に連載の能楽
師であり能面家の二井栄逸氏によ
るイラスト(能面及び能面画)三
十七葉が対称に挿入され、迫力の
あるものとなっている。
〔著者の経歴〕
大正八年生れ、旧筆名館集也。

女 郎 花

草子洗小町

仕舞田 花 村クセ 阿竹登代子 桜 川クセ川村ちる子

九世 福井五郎二十七回忌追善

幸 友 会 大 会

四月二十九日(天皇誕生日)午前九時始
熱田 神 宮 能 楽 殿

狂言 仏 師	清 経	萬 城	富士太鼓	芦 刈	船 弁 慶	致 盛	西 行 櫻	花 月	熊 坂	網 之 段	俊 寛	天 鼓	船 弁 慶	東 北	玉 葛	女 郎 花	百 萬	藤 丸	山 姥	草子洗小町	
井上松次郎	金井久枝	清沢一政	竹内澄子	成田知子	大場カヅ	岡田満子	川淵泰子	坂野之型	山田まき	石井鐘子	石井鐘子	深見賀子	後藤新治	荒井静江	近藤幸江	高橋千紗	水藤元三	足立義雄	足立義雄	幸正昭	
井上礼之助	河村幹大	須賀英二	河野智大	佐藤智恵子	大場カヅ	北川道子	戸松利作	鬼頭英二	山田久枝	寺田定男	寺田定男	吉田定男	河村幹大	河村幹大	吉田定男	吉田定男	吉田定男	村瀬正	鬼頭英二	幸正昭	
鬼頭季信	鬼頭好信	森本重一	鹿取希世	森本重一	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世	鹿取希世

名古屋観世九阜会定期能

能 熊	能 野	能 石	追 加	能 千	能 鶴
飯富 雅介	飯富 雅介	飯富 雅介	飯富 雅介	飯富 雅介	飯富 雅介
飯富 雅介	飯富 雅介	飯富 雅介	飯富 雅介	飯富 雅介	飯富 雅介
飯富 雅介	飯富 雅介	飯富 雅介	飯富 雅介	飯富 雅介	飯富 雅介

TEL 052-261-1136 五九

耳目抄

熱田能楽殿の揚幕

春の彼岸会の放送(NHK、以下おなじ)は久々東本願寺と最乗寺(東尾柄町、曹洞宗)からであ...

名前の片山慶太郎氏は京都観世会館の揚幕はその五色であると告げられる(紅白二色の幕もあるとのこと)...


演能案内
五月三日(日)午前九時始
熱田能楽殿
番外発声 仕舞屋 島奥川 恒治 春日竜神 駒瀬 直也
舞子 紅葉 狩 浦口 興子 海 士 北村 空南

武田謡楽会春季大会
五月四日(休)午前九時始
熱田能楽殿
番外発声 吉井 順一 武田 欣司
舞子 歌 武田 大志 小鍛 治キリ 武田 大和

第二十四回 狂言やるまい会公演
五月九日(土)午後二時開演
熱田能楽殿
柿山伏 野村 信行 佐藤 融
空腕 茂山 正義
木六駄 野村 耕介 野村万之丞 井上礼之助

〔著者の経歴〕
大正八年生れ、旧筆名能楽也。
〔お振込に便利な振替用紙をお送り致します。〕
草子洗小町
〔有料〕
当日券三千円
名古屋市中区元町一ノノ十七
TEL052-161-3659

お茶の間と直結! NOWな30分! 18:00~18:30



能 楽 の 友

題字は熱田神宮 藤田宮司様

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
一部 70円

熱田神宮大祭 奉納能

6月5日 能3番上演

大蔵流 狂言方 茂山千作氏叙勲
勲三等瑞宝章の榮譽

天皇誕生日の四月二十九日、春の叙勲が発表されたが、大蔵流狂言方・茂山千作氏(本名・直一)が勲三等瑞宝章に叙せられた。

6月7日 清韻会別会能

能「菊慈童」「班女」「安宅」

清韻会能は毎年六月第一日曜として、きたる六月七日、熱田神宮能楽殿で催されるが、本年は大槻一門の殿島修二、杉村竹翠の両師が牽舟を迎え、この祝賀記念の別会として三番立て能で行なわれる。能組は、初番に祝能「菊慈童」小書遊舞之楽(シテ殿島修二師)素謡「驚」を杉村竹翠師が披露、「班女」(征之伝(シテ泉嘉夫師))「安宅」(勧進帳・酌母(シテ大槻文蔵師))ほか狂言(綱筒)狂言など。

殿島、杉村両師はさる昭和五十二年日本能楽会から多年にわたり能楽界につくした功績が顕彰されて高勲者能楽功労者表彰を受章。四海の平穩を清浄な鳥に象徴した謡曲「驚」選齡延年の祝福を主眼とし人生の永久の春を賛美する「菊慈童」さらに情緒ゆたかな「班女」劇能の粹「安宅」など芸術格ともども熱観の別会能として期待されよう。(番組③面)

熱田神宮舞楽神事

熱田神宮の舞楽神事は千有余年になら保存継承され、宮廷以外では日本最古の舞楽といわれているが、ことしの舞楽は熱田神宮桐竹会により五月一日次の曲目で行われた。

「振鈴」「萬歳楽」「延喜楽」「中央宮楽」「新舞踊」「散手」「貴徳」「長慶子」

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[5月]

16日(土)	猪俣会大能	(来場歓迎)	(番組①面)
17日(日)	観照会大能	(来場歓迎)	(番組①面)
23日(土)	観世会土曜定式能	(有料)	(番組①面)
24日(日)	観世会大能	(来場歓迎)	(番組①面)
31日(日)	鳳鳴会大能	(来場歓迎)	(番組②面)

[6月]

5日(金)	熱田神宮大祭奉納能	(来場歓迎)	(番組③面)
6日(土)	前調会大能	(来場歓迎)	(番組③面)
7日(日)	清韻会別会能	(有料)	(番組③面)
14日(日)	観世会定式能	(有料)	(番組④面)
21日(日)	宝生会定式能	(有料)	(番組④面)
28日(日)	金春会能	(有料)	(番組④面)

[7月]

5日(日)	豊星会	(来場歓迎)	(番組④面)
12日(日)	朝日狂言會	(有料)	(番組④面)
18日(土)	九草会定期能	(有料)	(番組④面)
19日(日)	呉竹会	(来場歓迎)	(番組④面)
26日(日)	観世会	(有料)	(番組④面)

[8月]

2日(日)	野村又三郎師還暦祝賀記念狂言・素謡会	(来場歓迎)	(番組④面)
8日(土)	名古屋新能(神宮境内神楽殿前)	(有料)	(番組④面)
9日(日)	宵總會定期能	(有料)	(番組④面)
16日(日)	官庁楽団楽会	(来場歓迎)	(番組④面)
30日(日)	愛の会	(有料)	(番組④面)

(演能変更の節はご了解下さい)

名古屋観照会大会

五月十七日(日)午前九時始
熱田神宮能楽殿

狂言清	連吟	當	恋重	遊行	安宅	能班	海	附祝言
水	野村又三郎	藤本正晴	大庭栄子	田中幸一	児玉正江	西村欽也	西村欽也	舟
藤本正晴	野村信行	福本朝太郎	江尻貞子	柳	柳	野村又三郎	野村又三郎	弁慶
野村信行	福本朝太郎	福本朝太郎	倉地和代	田中幸一	柳	野村又三郎	野村又三郎	清
野村信行	福本朝太郎	福本朝太郎	竹内幸	柳	柳	野村又三郎	野村又三郎	善知
野村信行	福本朝太郎	福本朝太郎	栗林愛子	柳	柳	野村又三郎	野村又三郎	鳥
野村信行	福本朝太郎	福本朝太郎	栗林愛子	柳	柳	野村又三郎	野村又三郎	翔入
野村信行	福本朝太郎	福本朝太郎	栗林愛子	柳	柳	野村又三郎	野村又三郎	急之舞
野村信行	福本朝太郎	福本朝太郎	栗林愛子	柳	柳	野村又三郎	野村又三郎	急之舞
野村信行	福本朝太郎	福本朝太郎	栗林愛子	柳	柳	野村又三郎	野村又三郎	急之舞

観世会土曜定式能

五月二十三日(土)午後一時始
熱田神宮能楽殿

半	能	班	墨	僧	花
藤本正晴	野村信行	西村欽也	野村又三郎	谷田宗二朗	伊藤健一郎
野村信行	福本朝太郎	西村欽也	野村又三郎	大野弘之	伊藤健一郎
野村信行	福本朝太郎	西村欽也	野村又三郎	大野弘之	伊藤健一郎
野村信行	福本朝太郎	西村欽也	野村又三郎	大野弘之	伊藤健一郎
野村信行	福本朝太郎	西村欽也	野村又三郎	大野弘之	伊藤健一郎
野村信行	福本朝太郎	西村欽也	野村又三郎	大野弘之	伊藤健一郎
野村信行	福本朝太郎	西村欽也	野村又三郎	大野弘之	伊藤健一郎
野村信行	福本朝太郎	西村欽也	野村又三郎	大野弘之	伊藤健一郎
野村信行	福本朝太郎	西村欽也	野村又三郎	大野弘之	伊藤健一郎

名古屋観世会春の大会

五月二十四日(日)午前十時始
熱田神宮能楽殿

花	雲雀	月	雲雀	月
伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎
伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎
伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎
伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎
伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎
伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎
伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎
伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎
伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎	伊藤健一郎

〔当日券〕二千円
主催 青
後援 中日新聞
梅若盛
野村四郎 地謡
河村江修一
中川村修一
松木千冬
千冬章二
藤井武井田
藤井田田
完徳志邦
治三房久

名古屋観世会定式能(三回)

六月十四日(日)十二時半始
熱田神宮能楽殿

素雨 月 須部 秀雄 後藤 製雲 地頭 塚本 秀雄

能采 女 宝生 剛 吉田 定男 藤田 昭彦 福井啓次郎

狂言 磁石 茂山あきら 網谷 正美 大槻 文蔵 片山慶次郎

能鉄 輪 飯富 雅也 後藤 三男 飯富 雅介 寛 鉢一 鬼頭 八郎

附祝言 (有料) 主催名古屋観世会

「和泉元秀を観る」 名演狂言劇場第一回公演

日本の芸・狂言の心を現代に「和泉元秀」を観る。名演狂言劇場第一回公演が四月三日、四日の二日間、名古屋市東区東横二の名演小劇場で開催された。

鳳鳴会大会

5月31日 熱田能楽殿
鳳鳴会は、大正二年に先代武田宗治郎師を迎えて発足、名古屋をはじめ中部地方の能楽界の発展に大きく貢献してきたが、きたる五月三十一日(日)熱田神宮能楽殿で「創立七十周年記念大会」を開催する。とくに今回は観世宗家が来演、能「舟弁慶」「藤戸」「恋重荷」の三番はじめ、素雨「鶏鳴小町」「木曾」など記念大会にふさわしい内容が期待される。

豊水会春の会

5月24日 栄能楽舞台
豊水会(高橋一師主宰)は、五月二十四日、名古屋・栄能楽舞台で春季大会を開催する。

素雨「安宅」「枯」「遊行柳」「当麻」など七番、番舞子「天鼓」舞子七番、仕舞四番

金剛流能「朝長」

大阪能楽観賞会5月公演
大阪能楽観賞会は五月二十六日、大阪能楽会館で金剛流能「朝長」小書・儀法(金剛流)狂言・鐘の音(茂山千作)で催される。

各地だより

岐阜 岐阜護国神社大祭奉納
「鶴舞能」は、さる四月八日、岐阜護国神社神苑能舞台で行なわれた。

半能「班女」(シテ春日千代子)

大阪 公演は五月二十六日、大阪能楽会館で金剛流能「朝長」小書・儀法(金剛流)狂言・鐘の音(茂山千作)で催される。

流元 剛行 金本 流宗 世宗

書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入

電話(291)2488-9
振替東京 3-3552
電話(231)1990
振替京都 113

城

割烹・小料理

●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10)
電話 241-0248
●喫茶・グリル(愛労研地下ビル)
電話 731-1128

四月の舞台から

喜之「草子洗小町」・久共「賀茂」鏡之丞「実盛」

竹尾 邦太郎

「草子洗小町」ワキ黒主(西村 欽也)、アヒ従者(井上松次郎)を伴って出る。明日に迫る歌会を不安を所謂蒼白きインテリの苦惱に見せす。大小(河村総一郎・福井啓次郎)のアシライも何かなし重苦しく、シテ小町(観世清之)も同様に媚りを重く運びに見せ、先に行きかねる按配に三ノ松で正に直します。段替秋草文様の唐織は全体に金が沈んで鈍い光を放ち、面は曇らせたまま沈鬱な心持のサシに一首を詠みます。両者の顔すムードは終始一曲に揺曳します。

開耳立てる黒主は後ろめたさもありません。「不得心なること」を些か自嘲気味に独白して中入です。アヒは立ちしやべりに主の黒主の苦衷を推量し、小町への同情の板挟みもあり、これも忽々と幕入です。三者交々に感情が内へ内へと籠って後場の展開に見所も一入気が揉めます。

次第で子方帝以下綺羅星の如く出ます。帝(喜之彌子喜正)初冠に赤い襟が首元に涼々しく、緋模様の大口に気品を見せます。シテは襟白二枚・着付白箔・扇面散らしに蔓草文様の唐織を重折に緋模様の大口。盛装は参内のためですが己が気分を引き立たせようという気持もあるでしょう。それが披露で古歌と極め付けられ、面目を逸し

の呼びかけから草子洗いへは、地とシテとの掛合に「洗い」一解け「主題が繰返され、所作で示されるのも都人に對する見栄と感し、結果が待たれるのです。

シテは脇正に出ると、体を左に開いて水を袖の水を袖みして洗います。疑念の晴れた小町の表情は欣喜雀躍というよりはホッとした気分が濃厚で、これまでの経緯を払拭するように舞中ノ舞は、喜びを胸にじっくりと噛み締める趣

シテは脇正に出ると、体を左に開いて水を袖の水を袖みして洗います。疑念の晴れた小町の表情は欣喜雀躍というよりはホッとした気分が濃厚で、これまでの経緯を払拭するように舞中ノ舞は、喜びを胸にじっくりと噛み締める趣

シテは脇正に出ると、体を左に開いて水を袖の水を袖みして洗います。疑念の晴れた小町の表情は欣喜雀躍というよりはホッとした気分が濃厚で、これまでの経緯を払拭するように舞中ノ舞は、喜びを胸にじっくりと噛み締める趣

生きた設備を誇る日進堂
メガネ調整設備は、正しいメガネ・快適なメガネづくりの根本です。日進堂は視力測定・メガネ調整用の諸設備はもちろんのこと、必要ときには数分でビックアップできる…お客様一人一人の視力記録システムなど常に生きた設備の充実を心がけています。

メガネ一本にも金神経を集中する日進堂
メガネ店の技術をささるもの—それは、お客様の信頼におこたえする責任感とまごころです。正しいメガネを安心してご使用いただくために、日進堂は、たとえメガネ一本にも金神経を傾倒しています。

最新の日進堂のアフターサービス
メガネをいづれも正しく、最良の状態でご使用いただけるよう努めることもメガネ店のつとめです。日進堂は可能な限りの修理サービス、レンズ・フレームの清掃サービスを無料でやっております。いつでもお気軽にお立ち寄り下さい。

定休日 毎週木曜日

正しいメガネでしあわせを……

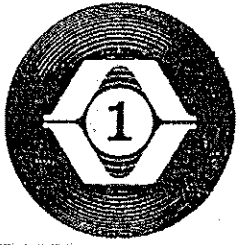
メガネの日進堂

◎駐車場完備 名古屋市西区那古野2-20-23(円頓寺本町)
▽451 TEL (571) 6181-3

第16回名古屋至新能

第廿五期・第二回 名古屋宝生会定式能

仕舞 阿部 半
濱田 加藤 正嗣
島曲 伊藤 雅弘
杉浦 尚三
水野 高三
吉川 老 伊藤 雄二



現代をみつめる眼
東海テレビ

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一 部 70円

題字は熱田神宮 窪田宮司筆

第16回名古屋新能

8月8日能3番上演

「名古屋新能」はことし第十六回をむかえ、きたる八月八日(土)熱田神宮神楽殿前・特設会場で開催される。

名古屋新能は、納涼能楽の夕べとして昭和四十一年から能楽協会名古屋支部主催、熱田神宮の後援で毎年開催され、緑蔭にくりひろげる野外能として定着してきてい

能「半部」「阿漕」

6月28日名古屋金春会能

名古屋金春会では、昨年金春信高宗家の還暦記念会能を開催したが本年から同会の演能会を定期的に行なうことになり、きたる六月二十八日、熱田神宮能楽殿で開催される。

第一部は、社中同人による素謡仕舞、連吟、第二部は午後一時から能「半部」(本田光洋)能「阿漕」(金春晃夷)の能二番はじめ狂言、舞囃子、連吟、仕舞など、自由席三千円(番組①面掲載)

日本能楽訪中団

上田照也団長一行28人 北京・天津・上海で公演

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[6月]

14日(日) 観世会定式能 (有料) (番組①面)
21日(日) 宝生会定式能 (有料) (番組①面)
28日(日) 金春会能 (有料) (番組①面)

[7月]

5日(日) 豊星会夏の大会 (来場歓迎) (番組①面)
12日(日) 朝日狂言会 (有料) (番組②面)
18日(土) 九草会定期能 (有料) (番組②面)
19日(日) 金森三十七回忌追善興竹会大会 (来場歓迎) (番組②面)
26日(日) 観世会素謡会 (有料) (番組③面)

[8月]

2日(日) 野村又三郎還暦祝賀記念狂言・素謡会 (来場歓迎) (番組③面)
8日(土) 名古屋新能(神宮境内神楽殿前) (有料)
9日(日) 青陽会定期能 (有料)
16日(日) 官庁実業団素謡会 (来場歓迎)
30日(日) 麦の会 (有料)

[9月]

5日(土) 観世九草会定期能 (有料)
13日(日) 観世会定式能 (有料)
15日(祝) 幸福会 (来場歓迎)
18日(木) 中日文化センター発表会 (来場歓迎)
20日(日) 和泉狂言会 (来場歓迎)
23日(祝) 鶴雲会大会 (来場歓迎)
26日(土) 泉楽会大会 (来場歓迎)
27日(日) 宝生会定式能 (有料)

(演能変更の際はご了解下さい)

名古屋宝生会定式能

六月二十一日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿

鬼頭 嘉男
西村 欽也
飯富 雅介
佐藤 友彦
高田 哲也
石井 真三
小沢 喜一
衣笠 正宜
藤井 義久

杜

飯富 雅介
吉田 定男
大竹 京一
河野 邦男
井上 茂兵衛
小沢 喜一
衣笠 正宜
藤井 義久

阿

西村 欽也
河村 総一郎
福井 啓次郎
藤田 昭彦
久野 幸三
馬場 富四夫
本間 英孝
鬼頭 嘉男

名古屋金春会大会

六月二十八日(日)午前九時始
熱田神宮能楽殿

仕舞 西玉 王ノノ
仕舞 竹熊 生
山口 貴志
三輪 昌宏
福島 寿観
旗 直樹
下雅意貴司
地謡 愛知大学能研
大池 美保
三輪 幸治
旗 直樹

名古屋金春会能

六月二十八日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿

高砂 安田 文吾
林 鉄郎
崎道行 広瀬 瑞弘
前田 茂穂
後藤 正男
宇仁田 吉助

豊星会夏の大会

七月五日(日)午前九時半始
熱田神宮能楽殿

仕舞 高砂 安田 文吾
林 鉄郎
崎道行 広瀬 瑞弘
前田 茂穂
後藤 正男
宇仁田 吉助
仕舞 山 笹ノ
段 高橋 汎
焼切 金春 安明

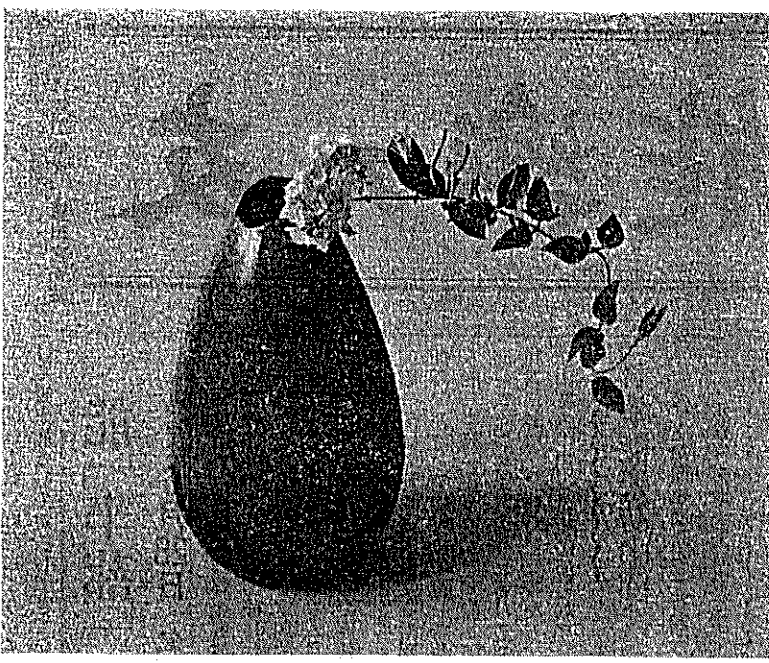
持もあるでしょう。それが披露で
古歌と極め付けられ、面目を逸し
払拭するように舞う中ノ舞は、喜
かなと思わせるムードを持って
行第十六代阿弥の念仏行動を触
針巻・亀甲に鶴の厚板・半切に朱
屋ケ丘2-50-9-307、三口
地に金の菱文様の法被の武者より
方(電話七八一八八五六)

五月雅日記

一滴一輪

二井栄逸

五月の始めであった。名古屋では珍しい備前焼香々都窯へかがつがまの個展が開かれた。作家は武用真さん。出品された作品は、茶碗、水指、壺、花入など、七十



西田三好氏中日文化賞授賞祝賀

6月15日中日パレスで

日本の伝統芸能、能楽の観世、金春、宝生、金剛、真多の五流秘蔵の小冊を発掘し、中日五流能などで上演につとめ、能楽の普及と発展につとめたことが顕彰された。能楽評論家・西田三好氏に対する中日文化賞の贈呈式が五月十八日午前十時から名古屋市中区三の丸の中日新聞本社六階ホールで行な

われた。西田氏の受賞を記念して、能楽関係として、観世流・観世元昭氏が発起人代表となり「西田三好氏中日文化賞授賞祝賀会」がきたる六月十五日(月)午後六時から、名古屋市中区・栄・中日ビル「中日パレス・クラウンホール」で催される。発起人会連絡先 名古屋市中区東白旗町一九 竹下法律事務所内、(電)〇五二九三五八二七九

い、私の好み通りの作品であったので、どうしても欲しくなり売約の札をはって貰った。

落下寸前

備前のように、釉薬(ゆうやく)をつかわず、焰によって焼成(し)ようせいする原始時代の技法をそのままうけついでいるのは、世界でも数少ないという。しっとりとした味わいはたまらなくよい。折よく作家の武用さんが見えたので色々話をした。一滴一輪のモチーフとなったのは、雨垂れであったようだ。

「雨のやんだ軒端に名残りの半がふくらみながら、やがて落下する瞬間のかたちをヒントを得たんです」と、氏はいう。

伝承と創造

伝承といふことは尊い。しかし伝統に安住してはならない。古代からの伝統をまもる備前の作家もつねに新しいものを創造しようという野望をいだいているようである。

「土味を最もよく生かし、落ちつきと、風格のある備前焼、何時見ても現代感覚を失わぬもの、それに私は生涯をかける覚悟です」。

と、武用さんはいった。新しいものを求める。これは、誰かが望んでいることで、これによって文化が進歩するのであるが世の中には、現代をさきさきしている本来の文化をさきさきしている人が

いないでもない。私達の文化をさきさきしているものは、とりもなおさず古典である。古典を否定した文化は、ジブシーのように其の目撃のシンの無いものになってしまうからである。

縦の線と横の線と

古代から未来へつらぬく線。それは、たしかかな物(精神的なものも含む)を伝承してゆく路線であって、たしかかな者がたしかかな物を伝承してゆく強靱な縦のラインでなければならぬ。又、日に日に新しくなっていく時代に即応して創造されてゆく文化を私は私なりに横の線とよぶ。それは、縦の線と横の線が交わるところに真の文化が生れるからである。創造といふことは大変なことで、縦の線を極め得ないものに創造といふ仕事が出来ない。

脆くも落つる露の身の

丸い水玉が下ぐれの楕円形になると、はたりと落ちる。松坂屋から届いたこの一滴一輪に花をもち、武用さんにもその写真を送る約束をしたので、昨日、絵のお弟子さんから頂いたスイカヅラを生けて見た。清高幽雅な詩趣がたしかにたまたまのようである。それは単純の極致を示す最高の三番目物の能、芭蕉の詩趣にも似ているのであった。

花は嵐の音にのみ

芭蕉の脆くも落つる露の身の。習の拍子をもむ芭蕉の情をみるようでもあった。(美、五三)

金剛家所蔵 能面・能装束展

恒例の金剛家所蔵、能面、能装束展が七月二十五日(土)二十一日(日)の二日間、金剛能楽堂で催される。

世界の動き 身近な話題
東京中日新聞
東京中日スポーツ
中日新聞本社 名古屋市中区三の丸1丁目6番1号 TEL 大代表者201-8511
中日新聞東京本社 東京都港区南青山2丁目3番地13号 TEL 大代表者471-2211
中日新聞北陸本社 金沢市香林坊2丁目7番15号 TEL 大代表者61-3111

第二十三回 朝日狂言会

七月十二日(日)午後二時始

熱田 神宮 能楽殿

入間川

井上松次郎 井上祐一 大野弘之

無布施経

大蔵弥太郎 善竹幸四郎

隠狸

和泉元秀 野村又三郎

磁石

善竹玄三郎 大蔵弥太郎 善竹幸四郎

二人袴

佐藤友彦 野村又三郎 井上礼之助 大野弘之

名古屋観世九皇会定期能

七月十八日(土)午後一時始
熱田 神宮 能楽殿
青木 武弘 加藤 保彦
小島 芳雄
能半 蔀 西村 欽也 吉田 定男 鬼頭 好信 後藤 孝一郎 寛 三男
能女郎花 西村 欽也 寛 敏一 鬼頭 好信 後藤 孝一郎 寛 三男
主催 事務所 名古屋観世九皇会
名古屋市中区元町一丁目十七番(加藤保彦方)
TEL 〇五二一六一一三六五九

金森準三十七回忌追善 吳竹会大会

七月十九日(日)午前九時始

熱田 神宮 能楽殿

養老

久田 秀雄 鬼頭 英二 山本 幸男 河村 亮

百島

坪井つる子 吉田 定男 後藤 孝一郎 寛 三男

藤戸

富士道周明 後藤 孝一郎 寛 敏一 山本 悦司

安宅

佐竹 皓 河村 亮 山本 悦司

天鼓

河井 隆子 岩田 慎一郎 後藤 孝一郎 寛 敏一

蟬丸

別所 道雄 寛 敏一 山本 悦司

羽衣

奥田 薫 佐藤 孝一郎 後藤 孝一郎 寛 敏一

熊坂

福間 克彦 鬼頭 好信 山本 悦司

花月

御牧 紀代 大倉正之助 柳原 富司忠 柳原 富司忠

卷絹

伊藤 敏子 水谷 栄一 中村 定子

班女

古井 佐季 河村 亮 山本 悦司

桜川

中川 美智子 鬼頭 好信 山本 悦司

海城

足立 知子 大倉正之助 柳原 富司忠 柳原 富司忠

唐船

南條 秀雄 大竹 英一 山本 悦司

紅葉

村瀬 つね 柳原 富司忠 山本 悦司

三輪

登志子 大倉正之助 柳原 富司忠 柳原 富司忠

雲雀

鈴木 條子 井上 美子 山本 悦司

富士太鼓

荒井 静江 大倉正之助 柳原 富司忠 柳原 富司忠

船辨慶

近藤とさ子 大倉正之助 柳原 富司忠 柳原 富司忠

運吟(意)経

赤塚 知子 山本 悦司

雨月

吉川 宇良子 大倉正之助 柳原 富司忠 柳原 富司忠

小塩

長田 義 河村 亮 山本 悦司

胡蝶

井上 菊枝 大倉正之助 柳原 富司忠 柳原 富司忠

半草子

佐藤アヤ子 山本 悦司

草子洗小町

梅若 修一 大倉正之助 柳原 富司忠 柳原 富司忠

清経

福間 昌作 大倉正之助 柳原 富司忠 柳原 富司忠

西王母

後藤 新治 大倉正之助 柳原 富司忠 柳原 富司忠

野村又三郎師還暦祝賀記念

大倉正之助 柳原 富司忠 柳原 富司忠

五月の舞台から

「やるまい会」と「猶諷会」

竹尾 邦太郎

「柳山伏」は子供供言とは言い、おもしろい胸のすく舞台です。シテ山伏・信行の闘争とアド畑主・殿の生真面目さが酸味味わい。子供ならではのメルヘンの世界を現出し、就中柳の木に見立てた葛桶上の信行の演技は大胆奔放です。シテ「あやめ」と言うのは、アド「飛ばぬかの」のやりとりは実によい間(ま)で将来が深みです。大蔵流「空観」は千五郎・正義父子の息の合った熱演です。シテ太郎冠者・千五郎に科白を自家薬籠中のものとして自在に操り、見所の反応を即座に受けとめます。「さてもさてもこれは迷惑な御用を御せつけられた。」の科白一つにも抑揚に工夫がこらされています。立居にもそれはあり、東寺で日没の描写は秀逸です。「暮るるは暮るるは、暮るるは暮るるは」と正中でくるくる廻る所作が、待ち受ける不安に、伝え聞く悪い噂が走馬灯のように去来する心象風景と重なります。東寺を出外れて淀の川筋を行く廻りは地味を知悉している強みが科白にもありありと頭れ、敵討ちの仮死状態から蘇生

昭和56年6月・7月放送予定

- NHKラジオ第一放送 (午前9時20分)
[6月]
21日(日) 宝生流「通盛」松本恵雄ほか
28日(日) 観世流「郡聊」大西信久ほか
[7月]
5日(日) 観世流「源氏供養」浅見真高ほか
12日(日) 宝生流「天鼓」野村昭作ほか
19日(日) 観世流「賀茂」藤波重和ほか
26日(日) 政治討論会のため謡曲放送中止
NHK・FM放送 (毎週日曜午前7時10分)
[6月]
21日(日) 観世流「玄氷」関根祥六ほか
28日(日) 観世流「氷室」浦田保利ほか
[7月]
5日(日) 喜多流「定家」友枝喜太郎ほか
12日(日) 観世流「松虫」谷村一太郎ほか
19日(日) 観世流「自居」金春信高ほか
26日(日) 観世流「郡聊」大西信久ほか
(放送予定につき変更のときはご了承下さい)

の上帯を巾広にきりりと蝶結びに結んだ後姿には太郎冠者の決意の程がありありと、十二頭の牛を独り追う様を丹念に見せませす。

「小傘」。和泉流のみにある大勢物。立衆に千五郎・正義が加わり異流共演です。博奕で食い詰めた坊主二人が如何にもそれらしく小話に「うなりをつけて」怪にしようとするところなど、万之丞のそのうなり工合が奇抜です。その万之丞の小傘飾を神妙に聞く朴田田舎の人が、段々目長上下、小サ刀の盛装で直立不動に居並ぶ可笑しさ、供物に流し目をくれるシテの面白さが際立ちます。堂内を巡りながら陳あらば供物を探め奪ろう現祖の又三郎が、老尼・松次郎の巧まざる邪魔に合せて妨げられ、背立つ様も滑稽です。

「猶諷会」は素謡六番・舞臺子五番を並べます。素謡は九番習「鉢木」、重習「求塚」・「恋重荷」「道成寺」と大曲揃です。就中「道成寺」シテ奥田敏子は無本。意気込の程がうかがわれます。ワキ盛義・ワキツレ和男・アイ又三郎地頭朗詠です。次第からサシに入つて見所は水を打ったようにシオンと静まり返り咬一つありませぬ。道行の声調には一種の昂りがあり、それが「急ぐ心かまだ遅れぬ、に切迫感を与え、曲趣に則る余裕が感じられます。アイとの間答があつて、へあうれしや溼分舞を舞ひ候べし、と高く澄明な謡は華麗で白拍子の歡喜を十分に表現し好演でした。

「耳目抄」
今駒清則写真展と
新聞小説・序の舞
五月中旬今駒八こんま/清則氏(能楽写真家)の写真展に行く。園氏は大阪、大阪芸大講師、要知県出身。入江泰吉と水門会写真展(第四回)の一環。水門会とは奈良の入江氏を囲む同志の集り。入江氏の住居が奈良の水門町にあるのでその名付けたこと。展覧の期内フットサロで東奔西足ながら元氣一杯の今駒氏に会う。出品は得意の能の写真でなく、能楽種々な情態を傾ける中国石窟仏(天土上土)。九点。北照中心で敦煌、雲崗、龍門の石仏。古拙の微笑が口元をただよう摩崖仏(窟窟石窟)やどこか感じが古代エジプトと不思議にも似通う飛天、これは龍門か雲崗か今思い出しせぬが、特に印象に残った。石仏を写すときの暖かく鋭く敬虔なハげんな心境について話し合う。信仰(宗教)と美術の同異にもふれた。

話が当然のように落ち付く所へ移つて行つた。能の話である。今駒氏は沢山の能写真のネガ(カラ)を大事そうに手提げの中から取り出す。これがまた逸品。実は六・七月で中国を訪ねる能楽団に同行、彼の地で演能とあわせて行われる同氏の能写真展はかの資料と告げられる。万をはるかに越える能の写実の山から選り出した自作品の五十枚集。私もまたよき能の写真が光る。これまた目を楽しませ、今駒能写真の一端を満喫させる。と同時に日本と中国の文化のかけ橋となる大切な写真であることに随分と重みを感じた。成功を祈る(能楽タイムズ五月号関連、石仏の箇所が記憶がいがあれば許されたい)

次は、五月十一日から新聞小説「序の舞」(朝日、夕刊)が始まった。故上村松園兩伯(京都)の一代記。富尾登美子作・下村良之介画。五月二十七日付が十五回。明治初期、まだ松園(津也)さんの生い立ちの頃。さし餘はその天

地が掛け軸風に草の文様で飾られていておもしろい。松園さんが能に取材する面を描くあたりがどんなに扱われるか興味を持つ。なお東京新聞には「冬の派閥」(城山三郎、中日にも、幕末前後の尾張藩の足跡がテーマ)と「転換期の群像」(第一部)将軍吉宗と尾張宗春(学習院大教授大石慎三郎)が載る。名古屋関係資料なので参考までに。

放送。独吟・鳥帽子折・梅若六郎、小袖曾我・宝生英雄、雛子、鶴子(大五郎・宣佳・春雄・惣右衛門)。五月五日、FM愛知。銀河テレビ小説「青春映画果。二十回、五月二十九日最終回。昭和の初めの京都の若い日本画家群像を取り上げる。その老大家に英山千五郎氏。風格豊か。同氏は昭和五十六年に京都都立(現京都芸大)で学ばれた出、やるまい会(野村又三郎)で来演のとき、楽屋で語られた。(NHK)新劇「千五郎の祀り」(NHK劇場、木下順二作、山本安英の会第2次公演から、五月二四八前Vと三一八後Vの両日)野村万作・観世栄夫両氏出演。

付。「序の舞」と千五郎氏のこと。「上村松園さんの八重眉抄」(本の名)が今手許にないのでおさしますが、松園さんのお話はたしか金剛流でございましたね。「そうです」「それで」「いつも室町(注:金剛能楽堂)ではシテ正の前列でじつとみておられました」「すると、須田太郎面伯はワキ正でございましたから、お二人の松かきさんが」「そうです云々一月末来名の谷田宗二朗氏(ワキ方高安流、京都、三十一日鳳鳴会出演)との会話である。名品「養上」にも觸れられた。くわしくは近日金剛能楽堂を訪ねた折金剛夫妻におききたいと思つた。また千五郎氏の絵専の勉強は日本画で、一年のときの「めしう」(注:鳥の名は評判高かった由。これについて谷田氏はははえまじい後日談を語られた。それは後日に。なお「千五郎夜話」(権藤芳一氏聞き、京都新聞掲載)のあることも。

とすれど/え 刺さず/なみだあふるる電子(後半)天真らんまん/真昼の天子の笑い声

私は弱法師の詩「私は杖とよたり/静かな秋の山道を/村の柿の木の下を/千供たちの声を聞きながら/とほとほあるく」と歌う弱法師の詩が好きです。鋭い明暗、深い冥想、大きな清濁、古風と現代が交差する詩です(能楽の友四月号、青雅日記、二井栄逸関連)他、丹羽征夫能面展。朝日ギヤラリー(朝日文化センター)。詩集刊行と同時に開催。若い女面は師の長沢春春氏を飾る。小半附・中野飛出・ベシ見・山姥ほか丹羽氏の出品(森崎夢野氏の福之神八狂言面)ほか招待出品あり口の周辺がきれい、印象的。同氏と「女面の口元」についてしばらく話し合う。

本。神々の庭・丹羽征夫詩集。能面詩集ほか。本の右側に詩、左側に能面のスケッチ(二井栄逸)著者は詩人・能面作家。住所・津市大谷町三〇七/丹羽方/並漢山房。詩の二・三を紹介すると、しんえんを/おまえこころを/な いつわりそみつめ/せめ/こころす(橋姫(後半)宇治橋のですりつかみ/なにかを/か呪う)

暑中御伺い申し上げます

鳳鳴会

名古屋橋岡会



外科・せいかい外科・皮膚、泌尿器科
東山整形外科
TEL 781-7835
東山公園駅下車 オークランドビル2F

檜書店
観世流 金剛流 流元
千101 東京都千代田区神田小川町2-1
千604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
電話(291)2488-9
振替東京3-3552
電話(231)1990
電 郵 京 都 113

城
割烹・小料理
●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10)
電話 241-0248
●喫茶・グリル(愛労野地下ビル)
電話 731-1128

蔵元直営
酒藏白龍
白龍本店 名古屋市北区深田町
電話 911-7572

楽しいお買いものはマツザカヤ

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社
 名古屋市中区千種2丁目18-18
 (郵便番号 464)
 電話 (731) 7984
 振替口座 名古屋 36393
 購読料 1年 700円
 郵送の場合 1年 1200円
 一 部 70円

第22回 大衆能

9月6日 愛知文化講堂
 能「半部」など4番

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[7月]
 18日(土) 九阜会定期能 (有料)
 19日(日) 金森準三77回忌 追善興竹会大会 (来場歓迎)
 26日(日) 観世会楽福会 (有料)

[8月]
 2日(日) 野村又三郎師遠辰祝賀 記念狂言・茶会 (来場歓迎)
 8日(土) 名古屋新能(神宮境内神楽殿前) (有料) (番組③面)
 9日(日) 青陽会定期能 (有料) (番組④面)
 16日(日) 官庁楽楽団楽福会 (来場歓迎)
 30日(日) 変の会 (有料)

[9月]
 5日(土) 観世九阜会定期能 (有料)
 13日(日) 観世会定式能 (有料)
 15日(祝) 幸 福 会 (来場歓迎)
 19日(土) 中日文化センター発表会 (来場歓迎)
 20日(日) 和泉狂言会 (来場歓迎)
 23日(祝) 観世会大会 (来場歓迎)
 26日(土) 泉生会大会 (来場歓迎)
 27日(日) 宝生会定式能 (有料)

[10月]
 10日(祭) 重陽会 大会 (来場歓迎)
 11日(日) 淡交会 大会 (来場歓迎)
 17日(土) 青陽会 定期能 (有料)
 18日(日) 和泉狂言会 (有料)
 24日(土) 和観世花会 (来場歓迎)
 25日(日) 幽花会 (来場歓迎)
 31日(土) 梅若六之丞 (来場歓迎)

(演能変更の際はご了解下さい)

能楽協会名古屋支部主催による「大衆能」は、今回第二十二回をむかえ、愛知県、名古屋市の後援により、九月六日(日)午前十一時から名古屋市中区・愛知文化講堂で開催される。「大衆能」は、昭和三十五年からは能楽の普及啓蒙をめざし、毎年秋の演能のさきがけとして回を重ねてきているが、今回は、その趣旨にふさわしい愛知文化講堂を会場として演能されることになった。番組は観世流能二番、宝生流、喜多流各一番の四番立。和泉流狂言二番、ほか金春、金剛各流の仕舞など五流で行なわれる。

昭和56年7月・8月放送予定

NHKラジオ第一放送 (午前9時20分)

[7月]
 19日(日) 観世流「賀茂」藤波重和ほか
 26日(日) 政治討論会のため謡曲放送中止

[8月]
 2日(日) 金剛流「融」種田道雄ほか
 9日(日) 「高校野球放送中止のとき、観世流」
 16日(日) 「玄象」③関根祥六ほか、16日(日)「玄象」④
 23日(日) 観世流「班女」梅若盛義ほか
 30日(日) 宝生流「三井寺」佐野萌ほか

NHK・FM放送 (毎週日曜日午前7時10分)

[7月]
 19日(日) 金春流「自然居士」金春信高ほか
 26日(日) 観世流「那野」大西信久ほか

[8月]
 2日(日) 宝生流「三井寺」佐野萌ほか
 9日(日) 宝生流「教盛」栗生菊生ほか
 16日(日) 宝生流「黒塚」三川泉ほか
 23日(日) 金剛流「融」種田道雄ほか
 30日(日) 観世流「女郎花」山階信弘ほか

(放送予定につき変更のときはご了解下さい)

開演午前十一時、前売千円、当日券千三百円、入場券は市内各ブレイガイド、能楽殿、出演各楽師宅。

主な演目は次のとおり。
 観世流能「高砂」(シテ久田秀雄、姥・本田勲)
 宝生流能「半部」(シテ玉井博徳、観世流能「小袖替」(十郎・須部甫、五郎・祖父江修一)
 喜多流能「小鏡治」(シテ長田驥狂言「賀賀」(野村又三郎、井上松次郎「仁王」(井上礼之助ほか)(番組詳細8月号掲載)

暑中御伺い申し上げます
 熱田神宮 宮司 篠田康雄
 権宮司 長谷晴男
 署中御伺い申し上げます
 熱田神宮 能楽会

梅若六之丞 東京都中野区東中野2-6-14	大槻清韻会 大槻秀夫 大阪府東区上町二番地	大槻文蔵 大槻秀夫 大阪府東区上町二番地	観世元昭 中日文化センター特別教室	観世昭会 観世元昭	幽詠会 片山博太郎	観世榮夫 観世鏡之丞 観世雅雪	東 京 都 港 谷 区 恵 比 寿 南 一 一 二 一 一 一 四	鳳鳴会 武田太加志 武田志房	井上嘉久 (〒603) 京都市北区紫野下島田町六	幽花会 片山慶次郎 〒603 京都市北区山下下花ノ木町二番 電話(四九二)五三〇二番	山本観衛会 山本勝一 〒662 西宮市南郷町五十二番 電話(五九六)七三三(四七七)	梅若盛義 梅若盛義	名古屋淡交会 橋岡久共	上田観正会能楽堂 上田観正会 上田 照也	武田詠楽会 武田小兵衛 武田欣司 武田邦弘	財団法人 鎌倉能舞台 中森貫太 中森晶三 〒248 鎌倉市長谷三十一番一十三 電話(〇四六七)五五五七	初陽会 武田宗和	大西信久 大西智久 〒530 大阪府北区中崎西2丁目3-17	藤井久徳 完治 神戸市中央区能内町二一〇 電話(二二二)五一四四番	名古屋橋岡会 名古屋昭和区丸屋町五ノ三五 山田紀子方	井戸良造 井戸和男 大阪府阿倍野区文の里4-24-17 電話(〇六六二)三二一九番
--------------------------	-----------------------------	----------------------------	----------------------	--------------	--------------	-----------------------	--------------------------------------	----------------------	-----------------------------	---	---	--------------	----------------	----------------------------	--------------------------------	---	-------------	--------------------------------------	--	----------------------------------	--

現し好演でした。(5月16日・所見)

明治初期、まだ松園(津也)さんの生い立ちの頃。さし絵はその天

(五六・五三二・〇)

五月雅日記

みつめ、せめころす

二井 栄 逸

怒みを内に隠した表情を早くといふことはなかなかむづかしいことである。私は能面をよく書くが、怒みという感情の表現が一番むづかしいように思う。男の怒みは堂々と表面に出るが、女の怒みの方は内向しているからであろう。能面作家はその感情を裏にうまく表現する。

現在、使用されている能面は約百種位であるが、演出効果を考え、彫り方、彩色の仕事等がよく工夫され、その一つ一つには、主たる感情表現の外に、喜怒哀楽の変化を充分に表現出来るのが素晴らしい。勿論、それは舞台上でのことで、それも名手によって始めて実現されることであるが、しかし、或る目的のために強調された感情の表現は、手に持って見ても部屋にかけ、眺めて見てもよく分かる。

泥眼にひそむ感情
例えば、葵上や鉄輪に使用される泥眼をじつと見つめていると、その内面に複雑な感情が渦を巻いているのがよく分かる。それが舞



台の上で名手の技にかかると、能面は忽ち吐息をつき、うそぶき、絶叫し、或は悲しさを表現し、或時は官能的にさえるのである。泥眼は、光源氏の正妻、葵上に迫る六条御息どころの面としては最上の能面のように思う。むしろ、葵上の専用面となつてもよいのではないかとさえ思う位である。それは、高貴な身分で、習性をたえた優雅な女性である御息所が嫉妬に堪える複雑な心理をその皮

膚の下にうづかしているからであろうか。
一つになる音色
こないだ、詩人の能面作家丹羽征夫さんが出版した詩集、「神々の庭」の中に次のような泥眼の詩があった。

静と動
能面を大きく分けると、静と動の二種類になる。動きが表面化したものと、表面化しないものに分けられる。
般若、獅子口、大飛出、べしみのように瞬間的な動きをデフォルメした面と、小面、孫次郎、若女、曲見のように感情を内向させた面とがある。無表情の人をさして能面のように無表情な顔、とよく人はいうが、実は能面は無表情ではないのである。わずかなまなぶたのふくらみとかげり、口もと、頬の凹凸、ひたいのふくらみ等で、ひとたび舞台上に生きかえると、人間の顔より深い感情をあらわし、性格的になる。

この静と動の中間をゆくのが泥眼であるといつてよいだろう。これから般若に変身してゆく泥眼は激烈な感情の動きをぐっとおさえた表情で、眼と歯には金泥が使用されているが、舞台ではほとんど判らない。しかし、常の女面と違って、或る妖気が舞台上にただよっているのである。

私は、能面をかく時は、同じ小面をかくよりも、羽衣(流儀の主眼で、若女、孫次郎等)は羽衣、杜若は杜若の性格として面をかくているつもりである。能面という一個の彫刻から、絵画の世界に次元をかえてかくわけであるが、それだけに能面というものは立派な彫刻だといつも思うのである。

を頂いて身に余る光栄である。幸い健康にめぐまれ、今後とも能楽五流のため献身の努力を重ねたい」とお礼のことばをのべ、観世流坂井音重氏の発声で全員で「四海波」を連吟して午後八時おひらきになった。

西田三好氏 中日文化賞 受賞祝賀

能楽関係者つどい盛大に開催

氏中日文化



五流秘蔵の小書を発掘し、中日五流能など上演につとめ、能楽の普及と発展につくしたことによ

り中日文化賞がおくられた西田三好氏の受賞祝賀会が六月十五日午後六時から中区栄・中日パレス・クラウンホールで能楽関係者約百六十人が参集して盛大に行なわれた。

祝電の披露のち、西田三好氏から「ご好意溢れるご祝賀や激励

観世元昭氏の開会のあいさつのち、観世流宗家観世元正、金春流宗家金春信高、金剛流宗家金剛殿、観世流職分片山博太郎、中日新聞社常務若津良治、愛知淑徳大学小林泰三郎学長の諸氏から西田三好氏の能楽に対する熱情と努力をたたえることばがおくられ、繪巻店繪巻太郎社長、発声で乾杯、懇談のつづきうちに、わんや書店佐藤芳彦、宝生流職分本間英孝、喜多流職分二井栄逸、中津川商工会議所丸山敏治会頭、竹下法律事務所竹下伝吉の諸氏から祝辞がのべられ西田家親戚西田栄氏からあいさつがのべられた。

82能画カレンダー

予約受付のお知らせ
本紙連載の二井栄逸氏による昭和57年能画カレンダー予約。
▽予約特価 一部千五百円、郵送の場合、千四百五十円
▽予約期限 九月二十日まで。
ハガキで部数明記の上能楽の友社へ(詳細8月号掲載)

京都府東山区本町20丁目428

大江 将 董

名古屋観世九皇会

観世喜之

- 塚本秀雄
- 有賀滋子
- 長谷川章
- 加藤保彦
- 青木武弘
- 高木美智子
- 吉田一妙
- 高橋瞭

邦謡会

梅田邦久

- 須部政甫
- 清沢美和
- 今沢美一
- 本田勝朗
- 安藤勝朗

久田正会 久田秀雄

大倉流小鼓 久田舜一郎

松月会 久田徹二

久田正会 前野郁子

松野会 山幸親

毎日文化センター 謡曲教室

殿島修二

竹翠会 若松宏守
(千662) 西宮市平松町四十九
電話(0798) 231060-1

一謡会 河村鉦二

叶石会 河村総一郎

名古屋市昭和区前山町
一丁目二三(千466)
電話(七六一) 四八八二

散る花の会

南条秀雄

奥村富久子

名古屋修諷会

梅若修一

壺泉会

泉嘉夫

下田雄三

雄謡会中部地区連合会

名古屋和親会

一宮竹石会

岐原花会

下呂雄会

萩原雄会

高山雄会

佐野由於

水雲会 藤元三

山本眞賀

稲生芳雄

猶思会 熊沢恵美子

重陽会 菊池重郷

緑名会 田中武

宝生英雄

宝生英照

佐野正治

佐野由於

名古屋巽会

宝生辰巳孝

宝生嘉宝会

倉本雅

長浜市地福寺町八ノ二九
電話(076) 06300番

寅能案内

火入式 熱田神宮権宮司 長谷晴男 (七時頃)
御挨拶 名古屋市長 本山政男

春敵会

演能案内

第十六回 名古屋新能

八月八日(土)午後五時半始(雨天)
熱田神宮神楽殿前(仮設舞台)

能組

能(高) 高 砂 長田 穂 寛 誠一 鹿取 希信
能(清) 竹内 和 西村 欽也 河村 総一郎 森本 重一
仕舞(剛) 八 島 竹市 幸司 地謡 東田 康文
仕舞(春) 老 松 前田 茂穂 地謡 日比野 圭昭
後見 辰巳 孝 地謡 小沢 喜一 内藤 泰二
吉田 俊彦 稲川 寿一 鬼頭 嘉正 嘉男

能(観) 羽

狂言(和) 太 刀 奪 野村 又三郎 井上 礼之助
後見 殿島 修二 地謡 加藤 敏彦 稲久 田本 芳雄
能(観) 土 蜘蛛 西村 欽也 山口 亮 寛 三男
後見 梅田 邦久 須部 雨 地謡 中村 和男 小島 一雄
吉田 定男 福井 啓次郎 藤田 昭彦

附祝言

前夜一、五〇〇円
当日二、〇〇〇円
主催 能楽協会名古屋支部
後援 名古屋市・熱田神宮
入場券は能楽協会(三二九二二)・出演楽師宅・市内各プレイガイド
※火入れ式後に雨となった節は打切らせて頂きます。

梅若六之丞と泉嘉夫の「班女」が相ついで上演されたのは対照的で面白い。どちらが気に入ったか。

「班女」は梅若六之丞の「班女」が相ついで上演されたのは対照的で面白い。どちらが気に入ったか。

「班女」一題

前田 満穂

「班女」は梅若六之丞の「班女」が相ついで上演されたのは対照的で面白い。どちらが気に入ったか。

「班女」は梅若六之丞の「班女」が相ついで上演されたのは対照的で面白い。どちらが気に入ったか。

「班女」は梅若六之丞の「班女」が相ついで上演されたのは対照的で面白い。どちらが気に入ったか。



春 鼓 会

金 春 晃 実
広 瀬 瑞 弘

竹 腰 勝 一

緑 宝 会

金 剛 永 謹

金 剛 永 謹

廣 田 後 援 会

廣 田 後 援 会

廣 田 幸 稔

廣 田 幸 稔

廣 田 幸 稔

廣 田 幸 稔

廣 田 幸 稔

廣 田 幸 稔

二 井 栄 逸

高 安 勝 久

高 安 勝 久

高 安 勝 久

高 安 勝 久

高 安 勝 久

高 安 勝 久

高 安 勝 久

高 安 勝 久

高 安 勝 久

高 安 勝 久

高 安 勝 久

高 安 勝 久

高 安 勝 久

氏... 発起人代表と... 祝電の披露のち、西田三好氏... 祝電の披露のち、西田三好氏から「ご好意溢れるご祝詞や激励...」(詳細8月号掲載)

西濃・近江路を訪ねる

「養老」「班女」「熊坂」「朝長」「烏帽子折

謡曲名所めぐり

11月3日(祭)に実施

(詳細9月号掲載)

能楽の友

題字は熱田神宮 蓮田宮司筆

発行能楽の友社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一部 70円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[8月]

16日(日) 官庁楽団奏演会 (来場歓迎)

30日(日) 麦の会 (有料)(番組⑥面)

[9月]

5日(土) 観世九奉会定期能 (有料)(番組⑥面)

9月6日(日) 第22回大衆能 (有料)(番組⑥面)

13日(日) 観世会定式能 (有料)(番組⑥面)

15日(祝) 春福会大会 (来場歓迎)(番組④面)

19日(土) 中日文化センター発表会 (来場歓迎)

20日(日) 和泉狂言会 (来場歓迎)

23日(祝) 観世会大会 (来場歓迎)

26日(土) 泉生会大会 (来場歓迎)

27日(日) 宝生会定式能 (有料)

[10月]

10日(祭) 重淡陽会 (来場歓迎)

11日(日) 陽文陽会 (来場歓迎)

17日(土) 陽文陽会 (有料)

18日(日) 陽文陽会 (有料)

24日(土) 陽文陽会 (有料)

25日(日) 陽文陽会 (来場歓迎)

31日(土) 陽文陽会 (来場歓迎)

[11月]

1日(日) 風幸観世会 (来場歓迎)

3日(祝) 観世会 (来場歓迎)

8日(日) 観世会 (来場歓迎)

14日(土) 観世会 (来場歓迎)

15日(日) 観世会 (来場歓迎)

22日(日) 観世会 (来場歓迎)

23日(祝) 観世会 (来場歓迎)

28日(土) 観世会 (来場歓迎)

29日(日) 観世会 (来場歓迎)

(演能変更の際はご了解下さい)

北陸中日能 9月20日 金沢で開催
北陸中日能は、九月二十日(日)金沢・石川厚生年金会館で開催される。

昭和56年8月・9月放送予定

NHKラジオ第一放送 (午前9時20分)

[8月]

16日(日) 高校野球放送 (中止のときは「玄象」)

23日(日) 観世流「班女」梅若盛義ほか

30日(日) 宝生流「三井寺」佐野朗ほか

[9月]

6日(日) 観世流「松虫」谷村一大郎ほか

13日(日) 金春流「自然居士」金春信高ほか

20日(日) 宝生流「黒塚」今井泰男ほか

27日(日) 観世流「松風」井上嘉久ほか

NHK・FM放送 (毎週日曜日午前7時10分)

[8月]

16日(日) 宝生流「黒塚」三川泉ほか

23日(日) 金剛流「融」福田道雄ほか

30日(日) 観世流「女郎花」山階信弘ほか

[9月]

6日(日) 宝生流「砧」◎宝生英雄ほか

13日(日) 同 上 ◎同 上

20日(日) 観世流「清経」観世元昭ほか

27日(日) 観世流「班女」梅若盛義ほか

(放送予定につき変更のときはご了解下さい)

文化庁主催の移動芸術祭巡回公演
文化庁主催の移動芸術祭巡回公演は、本年度は、奈良、三重、静岡、千葉、新潟の五県でそれぞれ一公演が催される。

11月27日 四日市・市民会館で

金春流能「葵上」和泉流「棒縛」

梅猶会「道成寺」

井戸和男師

梅猶会(梅若盛義師)は、九月二十六日(土)大阪能楽会館で別会を開催。井戸和男師が「道成寺」を抜く。「梅丸」替之型(梅若善高、梅若修一)「羽衣」彩色之伝(生田源神社)

各地だより

神戸新能 八月一日、二日、神戸長田神社境内

姫路新能 八月一日、姫路城三の丸広場

ポートピア博能 八月九日、神戸能楽会特別公演、神戸国際会議場メインホール

大阪新能 八月十一日、十二日、生田源神社

(梅若盛義)とともに能三番。会員券A席(指定席)八千円、B席(指定席)六千円、自由席四千円。申込みは梅猶会連絡所(〇六六二二二二一九)又は梅猶会楽師宅。

Table with columns for various associations and individuals, including names like 松音会, 泉泰孝, 大垣浦声会, 梅若万三郎, 名古屋観世会, 財団法人研能会, 橋香会, 内藤泰二, 高安流岡同門会, 江崎金治郎, 江崎康雄, 九州高安流同人会, 飯富良人, 飯富徹, 飯富二朗, 飯富俊輔, 飯富生, 飯富一, 飯富雄, 飯富雄一, 飯富雄二, 飯富雄三, 飯富雄四, 飯富雄五, 飯富雄六, 飯富雄七, 飯富雄八, 飯富雄九, 飯富雄十.

瓦をつなぐ仕掛の名称も。(衣食)
住と能・狂言のつながりの一断面
ふれる。筆者は八はV氏。福原麟太郎先生を偲ぶ(河盛好誠、平凡)
長男晃宏
読んでご冥福をお祈りします。

込みを頂いておりますが、紙面の都合にて七月号、八月号にわけて掲載させて頂きますので何卒ご理解賜りますようお願い致します(編集部)

五月雅日記

或る車イスのわか者たち

二井 栄 逸

絵は私のことば
私の人生のすべて——と、
雑草のようにたくましく、踏み
つけられても自分で立ち上られる
人間になろう。それは、私たちが
身が努力し、幸福に向けて歩んで
ゆくことだと、青春を絵筆にかけ
るグループがある。

そのグループというのは、若い
重度の身障者を中心としたアピ
リテイズ美術工芸クラブという
集団である。毎月第三日曜に原宿
にある渋谷区心身障害福祉センタ
ーで、絵の勉強をしている進行性
筋ジストロフィー症の人や、重度
脳性小児マヒ等、さまざまな障害
を持つ青年ばかりのグループであ
る。

社会参加を目指して
その人達は、自分達の作品展を
開き、即売して積み立て、仲間が
自由に出入りできる画廊喫茶を誕



三十名の先生方から寄贈を受けた
こと、藍のボランティアになって
下さった片岡仁左衛門丈のこと等
詳細に書きこんだ礼状であった。
そして、四、五日のこと、感
謝とまごころをこめて、今年も新
宿の伊勢丹で愛のフアミリー絵画
展を開催するのでよろしくとの便
りがきたので、今度は、生田川で
若葉をつむ求塚の前シテの素描を
おくって置いた。

絵に生きる彼等はいう。
保障より機会を
わたしは、平凡な人間として
の道は選ばない。非凡な人間
として、できたら(保障)で
はなく(機会)を求めること
——これこそわたしの権利な
のだ。わたしは、国家に面倒
をかけながら、卑屈で怠惰に
ならされた(すねかじり)の
——

市民には、絶対になりたくな
い。わたしは、計算された冒
険なら喜んで飛び込んでいき
たい。夢を描き、建設の喜び
に浸れることなら、たとえ、
成功しようとも失敗しようとも
——わたしはこういう素晴
らしい人生の刺激を、ほどこ
し物と物々交換することを拒
絶する。わたしは、保障され
て無為徒食するくらいなら、
人生への挑戦を望んでであら
う。——

クラブの代表の増田さんは、N
HK国際障害者年キャンプに
出演した。会員の中には創元会
の準会員になった人や、足を松をか
き、二科展に入賞した女性もいる。
又、ローマ法王来日の節、車椅子
を代表して法王に謁見したわか
も

——和泉、大蔵両家元の観演が話
題を呼んだね。
——観演というより両派の違いと
いうより両家元の個性、持ち味の
違いがハッキリ出て面白かった。
——面白くいえば地元の勢、特に
井上松次郎、野村又三郎のたつき
込んだ味が捨て難いものであるこ
とをあらためて感じた。

「朝日狂言会」雑観

前田 満 穂

でござる」といって一向に
このあたりの者」になっていない
。演者自身がつ立っているだけ
だ、と厳しさをいっているが、
この弥太郎は見事、この批判に耐
えるだけのものを示したと思う。
——なるほど。その点は認めるが
全体では地味過ぎたように思うが
どうか。もう少しアクセントがあっ
てもいいのではないか。淡々とし
た慈母相すべし、という向きもあ
るが、僕の好みとしては、もっ
とドラマチックに皮肉に葉を利か

「隠麗」はどうだ。
——楽しく明るく健康でエネルギ
ッシュ。謙敬、律義な弥太郎とは
正反対な性格がそのまま舞台に出
る感じだ。ただし、どの太郎冠者で
も同じようだと困るのだが、これ
はこれで一つの行き方で悪くな
い。ただし、彼も藤九郎のキメの
細かきをもっともっと学んでほし
い。これまた年輪とかキャリアー
にこだわるべき問題ではない。
——あと「入間川」「磁石」「二
人袴」では「入間川」が一番まと

のもいる。その内、プロ作家とし
てデビューする会員が生れるかも
知れない。
わか者達、強くなれ
世界どの国にも、体の不自由
な人々がいます。絵をかき、友を
大事に努力する身障青年グループ
アピリテイズに愛の手をさし
上げて下さい。社会に出て働
けない若人に応援して下さい。ペ
ルギーのアルベルト・カルペンチ
イルさんのメッセージをおかりし
て、私もわか者の為を大にし
てあげたい。そして、地方都市
にもそのような爽やかな集団が出
来てほしいと思うし、アピリテイ
ズクラブの人たちが、魅力ある
青年紳士として、見事に社会復帰
をされる日の近からんことを心よ
り念ずるものである。
(五六・七・三二)

——総体に感じたことだが、アン
サンブルがよくないね。舞台の協
力が足りないというのではない。
個性、芸風の違いが目立ち過ぎる
のだ。それが一風変わった魅力を生
散していた、と云えないこともな
いが、本格的な演劇の魅力とは遠
いことは否めない。
——演技者めいめいが、自分の守
備範囲内の芝居をしているだけで
は、善悪の協力があつたとしても
実を結ぶことは難しい。結局はそ
の日の日の風まかせになってしま
うから。僕は狂言にも演出者が
要る時代が遠くないような気がす
るな。

これはまた気の早い理想主義
者のお言葉、演出者がいようとい
まいと、いいものはい、悪いも
のは悪い。世の中いものがある
たんとあるはずがない。毎度々々
いい舞台を期待するのは、演者に
気の毒というものだ。年に一度で
もいい狂言が見られたら以て喜ぶ
べし、は少し云い過ぎかな。
(7月12日、熱田神宮能楽殿)

【寄題】謡曲同好の会として活
動をつづける神戸市の清葉会(会長
・元山清氏、神戸市兵庫区七宮町
二一四)は、同会機関紙「清
葉」の創刊号から三十号までの合
本(五百三十頁)を完成、春期さ
れた。

◆ 暑中御伺い申し上げます ◆

谷口正喜
京都市上京区中立売通室町西入
室町スカイハイツ610号
電話(075)234-1131

演能写真
ウシマド写真工房
〒602 京都市上京区北野上七軒
電話(075)234-1131

熱田神宮能楽殿
仙田美千子
電話(六七)二九二二番

寛 鈺 一
吉田定男
栄能楽舞台
名古屋市中区栄五丁目二二
電話(二六二)一八三番

長生会
鬼頭八郎
喜太郎
好信
愛知県中島郡平和町城西
電話(052)296-00番

楽諷庵舞台
加納保一
名古屋市中区滝川町四七七八三
電話(八三三)七〇〇一 番

茂山千作
茂山千五郎
葵心庵舞台
尾張旭市東大道町原田二四九三ノ二
若杉ビル(旭市役所南)
電話 〇五六一五〇二三四六番
旭市役所南
電話 〇五六一五〇六九八

朝日文化センター
雛子教室
小鼓後藤孝一郎
丸栄スカイル10階

能楽の友社
同人一同

野村又三郎師
秘曲「花子」 藝装上演
8月30日 やるまい会東京公演
狂言やるまい会東京公演は、八
月三十日(日)東京・水道橋・宝
生能楽堂で開催される。
同公演では秘曲「花子」(野村
又三郎、野村万之丞、野村万之介)
「観舞」(茂山忠三郎、茂山千五
郎、山本則直、茂山宗彦)「清水」
(野村信行、野村又三郎)「首引」
(和泉元秀、野村万之介、三宅右
近、佐藤友彦ほか)はじめ、仕舞
「富士太鼓」(観世銚之丞)「熊
坂」(観世栄夫、小舞「真清」(山
本則直)「通門」(茂山千五郎)
「奈須与市語」(野村万之丞)で熱演

【おことわり】暑中見舞と芳名広告のお申
込みを頂いておりますが、紙面の都合にて
七月号、八月号にわけて掲載させて頂きま
したので何卒ご理解賜りますようお願い致
します。(編集部)

が期待される。開演午後一時半。
入場料(全指定席)五千円、三
千五百円、二千五百円。
券取扱所 東京公演事務所(〇
三九九二二一七四、福本金一
方)宝生能楽堂(〇三三二一八
四八四三)又は、やるまい会事務
所(名古屋〇五二一三三二一七五
五三、野村又三郎方)

名古屋観世九臈会定期能(納会)
梅田 敦史

麦の会
後見 松山 幸親 地蔵 安藤 勝朝 小島 芳雄
梅田 邦久 田中 保彦 武田 秀雄
野村 武弘 塚本 秀雄

発行 能楽の友社
名古屋千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
一部 70円

能楽の友

年金のお受取りは名銀で

- 自動的に振込まれて便利です
- 共済年金の方もご利用ください。

名古屋相互銀行

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

[9月]	15日(祝)	幸福会大会 (来場歓迎)	(番組①面)
	19日(土)	中日文化センター発表会 (来場歓迎)	(来場歓迎)
	20日(日)	和泉狂言会 (来場歓迎)	(番組①面)
	23日(祝)	和泉狂言会 (来場歓迎)	(番組①面)
	26日(土)	和泉狂言会 (来場歓迎)	(番組①面)
	27日(日)	宝生会定式能 (有料)	(番組②面)
[10月]	10日(祭)	重陽会 (来場歓迎)	(番組③面)
	11日(日)	陽文会 (来場歓迎)	(番組③面)
	17日(土)	淡交会 (有料)	(有料)
	18日(日)	和泉狂言会 (有料)	(有料)
	24日(土)	世花会 (来場歓迎)	(来場歓迎)
	25日(日)	世花会 (来場歓迎)	(来場歓迎)
	31日(土)	世花会 (来場歓迎)	(来場歓迎)
[11月]	1日(日)	風幸宝鏡第3回 (来場歓迎)	(来場歓迎)
	3日(祝)	風幸宝鏡第3回 (来場歓迎)	(来場歓迎)
	7日(土)	風幸宝鏡第3回 (来場歓迎)	(来場歓迎)
	8日(日)	風幸宝鏡第3回 (来場歓迎)	(来場歓迎)
	14日(土)	風幸宝鏡第3回 (来場歓迎)	(来場歓迎)
	15日(日)	風幸宝鏡第3回 (来場歓迎)	(来場歓迎)
	21日(土)	風幸宝鏡第3回 (来場歓迎)	(来場歓迎)
	22日(日)	風幸宝鏡第3回 (来場歓迎)	(来場歓迎)
	23日(祝)	風幸宝鏡第3回 (来場歓迎)	(来場歓迎)
	28日(土)	風幸宝鏡第3回 (来場歓迎)	(来場歓迎)
	29日(日)	風幸宝鏡第3回 (来場歓迎)	(来場歓迎)
[12月]	6日(日)	歳末助け合い義捐能 (有料)	(有料)
	12日(土)	親世会土曜定式能 (有料)	(有料)
	13日(日)	和泉会大会 (有料)	(有料)
	20日(日)	青少年のための芸術劇場 (有料)	(有料)

(演能変更の節はご了承下さい)

「般若窟文庫」さらに充実 法政大学能楽研究所

法政大学(中村哲校長)能楽研究所では、このたび般若窟文庫の一切と、金春神鳳筆本など三十一点を真言律宗大本山・生駒山宝山寺より譲渡を受け、同研究所の他の蔵書と同じく一般に公開、すでに目録も完備し、研究者に広く活用されることになった。

生駒山宝山寺所蔵の金春大夫家旧伝文書のうち、世阿弥や金春竹の自筆本など特に貴重な七十四点を除く大半の文書(約二千五百点)を、このたびの寄贈は、宝山寺僧長松本実道氏の理解と好意によって実現したものである。

山本定期能楽会
10月、12月予定番組
山本定期能楽会の10月、12月予定番組は次のとおり。
・十月三日(土)
「通盛」(矢野一馬)「芭蕉」(山本真賀)「菊慈童」(八木康夫)・十二月十三日(日)
「俊寛」(宇治田正子)「定家」(山本勝一)「狸々乱」(山本幸博)
入場料一般券三千円。

第4回津・薪能 能「巴」「黒塚」を上演 10月2日 護国神社境内で

喜多流・長袖会主催、津市、津市教育委員会後援の「津・薪能」は十月二日(金)三重県護国神社境内(津市広町町)で行なわれる。この津・薪能は、昭和五十三年から催され今回は第四回津能で喜多流・長袖会が同門の大島政允師はじめ各職分の協力により護国神社で開演され、津市の文化高揚に大きな役割をなす、市民に親しまれている。

今回の「薪能」は火入式ののち、狂言「萩大名」(野村又三郎、

各地だより

親世元正師「松風」
大阪能楽観賞会9月公演
大阪能楽観賞会は九月九日、十日、十一日、大阪能楽会館で、親世元正師・親世元正師の「松風」を上演する。次回公演は十二月一日、河村隆司師の「融・十三段之舞」が予定されている。

A席券(正面指定席)四、八〇〇円、B席券(自由席)三、三〇〇円。

幸謡大会

九月十五日(祭)午前十時始
熱田神宮能楽殿

業師 杜若 小出 文字 大江 裕子
千手 塩崎 真次 小林 俊雄
運吟 土蜘蛛 安城 風謡会
舞子 高砂 砂 柏木 常夫 盛 久小島 照子
草子 洗小町 竹本 百合子 海 土成田 知子
仕舞 舞丸 上田 千代 経 正ヶセ 大江 裕子
班 女ヶセ 柏木 みどり 班 女アト 小出 文字
敦 盛キリ 梅田トミ子
石川 晴子

殺生石

後見 上田 知代 地謡 小川 俊雄 殿島 修二
近藤 幸江 高橋 正夫 河村 嘉夫
番外 仕舞 善知 鳥 泉 嘉夫
祝言 舞子 養 老 近藤 幸江 河村 嘉夫 鬼頭 喜太郎
水波之伝 水波之伝 福井 啓次郎 寛 三男
主催 幸江 藤 幸江 会

伯母ヶ酒

野村又三郎 井上礼之助 高鏡
萬 柏木みどり 上田 千代 田村 鉄子
俊 寛 成田 知子 中野 安江子
難 波岡田 満子 戲之舞 風村 邦子
舞子 山姥 金井 久枝 花 月川 潮 泰子
清 経 小森 辰雄 鞍馬 天狗 田村 鉄子
仕舞 五 登之段 中野 安江子 花 籠 加藤 千代子
前 橋田トミ子
後 谷野 博

和泉流狂言大会

九月二十日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿

狂言組
萩大名 伊藤 幸子 酒井 雅子
寝音曲 徳田 文三 井上礼之助
因幡堂 富田 智之 伊藤 淳子
瘦松 酒井 雅子 松井 直子
よしの葉 名田 一子
小舞 大原 木 中北 幸多子
掛川 柘植比呂子

雲会大会

九月二十三日(祭)午前十時始
熱田神宮能楽殿

能 景 清 熱田 神宮 能楽 殿
能 葛 城 神 楽
能 船 弁 慶 後シテ 櫻原 知治
付祝言 留ノ段
主催 雲 泰 会

福之神

長谷川 通雄 飯島 正治
今枝 郁雄 今枝 晴雄
井上 靖浩 井上 松次郎
王 石 和 泉 会
名 古 屋 大 声 会
名 古 屋 大 声 会
也 留 舞 会
狂 言 共 同 社

歌争

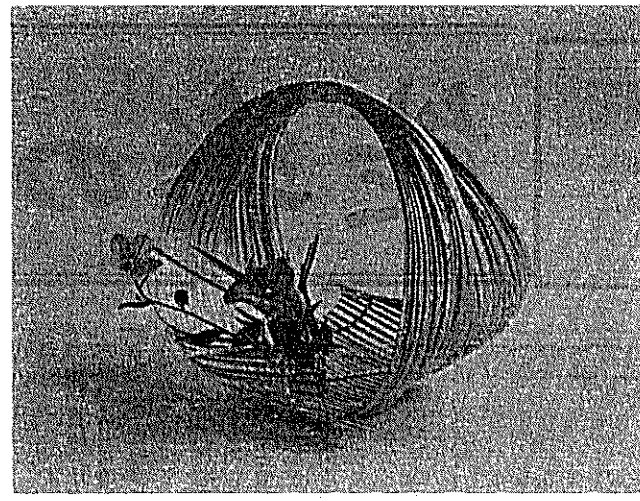
伊藤 淳子 柘植比呂子
伊藤 幸子 西野 彰恵
中北 幸多子 名田 一子
鷺見 政行 佐藤 啓
富田 智之

「名古屋和親会」とあるのは「名古屋和親会」の誤りにつゝお詫びして訂正します。(五六・八・二、の)

五月雅日記

桔梗

萩の花 尾花葛花（すずばな）
撫子（なでしこ）の花
女郎花また藤袴朝顔（あさぎ）



二井栄逸
おの花。
山上憶良（やまのうえのおくら）
が、右のような歌をよみ、又、選

定したといわ
れる秋の七草
は、今の世に
も伝承されて
いる。
初期の万葉び
との好みは、
白い花のよう
であったが、
天平期になる
と紫系統の花
が愛好される
ようになった。
憶良が選定し
た七草を見て
も、オミナエ
シの黄色をの
ぞけばすべて
紫系統の花で
ある。

七草の内の朝顔というのは、今
の桔梗（キキョウ）のことであ
る。（異説もあるが）。二藍（ふ
たあい）の藍（かさね）の色を生
んだ桔梗。たまゆらの妙なるしじ
まにひっそりと咲く青紫のこの花
は、夏から秋にかけて咲き、多く
の人々に安らぎを与えてきた。

そんな桔梗に花紋を使うのは可
哀な気がしたが、京都で手に入
れた籠に入れて見たかったので、
朝露と共にそっと生けて見た。
水色桔梗の旗差し物
キキョウは家紋としても、よく
とりあげられているようである。
私の恩師、稲垣先生のお家の紋も
桔梗であった。

能装束にも桔梗の紋を見る。私
は唐織や、縫製の紋様をかく時は
よく桔梗をモチーフにする。
大平記に、「土蔵の桔梗一換
（いっさ）水色の旗をさして」
とあるが、その水色桔梗の旗差し
物に続く軍列のさびややかさは、
又心の晴れるような爽やかさであ
ったような気がする。江戸城に桔
梗の間とか、桔梗門というのがあ
るように、土蔵ならすとも、桔
梗は武士の好みにも合っていたよ
うな気がしてならない。

各地だより

廣田後援会能

10月4日 金剛能楽堂
金剛流・廣田後援会の
秋期公演は、十月四日
（日）午後一時三十分か
ら京都・金剛能楽堂で開
催される。能組は次のとおり。

能半

立華供養 森田光春
谷口正喜 曾和博朗
地頭 金剛 巖
狂言石 神茂山千作 岩崎狂雲
仕舞花 廣田幸隆 廣田幸三
能是 界 村山 弘
河村大 井上敬介
林光寿 帆足正規
間 洞谷正美
地頭 廣田幸三

執心物の両極を示す

われは、稚児袴でなく腰巻モギ
ドウなのが合しい漁村の賤しい童
を両手に持つと一ノ松で高く挙げ
播磨ノ松を扱くように杖の手を手

明石

10月3日 明石市民会館で
明石古典芸能の会は、
明石市芸術祭に協賛して
十月三日（土）明石市民
会館大ホールで第七回「明石古典
芸能の会」を公演する。
同会には、兵庫県、明石市、明
石市教育委員会、明石商工会議
所、神戸新聞社などが後援、明石

那古野神社大祭

延喜の時代に創建された由緒あ
る名古屋・那古野神社の例大祭に
ちなみ、七月十五日同神社境内能
舞台で奉納狂言が催された。
同神社は、古来より大祭には若
宮八幡社まで御神輿渡御（おみこ
しとぎ）を行なうとともに、あ

舞囃子、連吟3番

邦楽・名吟会（会長・長谷川栄
一氏）は、第二十回記念公演を國
際障害者年チャリティとして、
七月二十九日、名古屋・御園座で
開催、舞囃子、長唄、清元、小唄
常盤津、新内、義太夫など総番数
五十三番を数え、会員の日頃の精
進の成果を披露した。
能楽関係では、観世流舞囃子
「船弁慶」（伊藤巧氏）観世流連吟「鉢
木」（米本平一、米本康平氏）
観世流舞囃子「山姥」（後藤新藏
氏）が出演した。

名古屋皇楽会秋季大会

九月二十六日（土）午前九時半始
熱田 神宮 能楽殿

奏通	小町	千手	弱法師	真獅子海	小	松	忠	素羅半	素羅隔	砧	玄	舞囃子	山	素羅三井寺	景	番外舞囃子	附祝言	
村瀬 勇	加藤美登利	後藤 鈴子	深見 賀子	督 奈倉 早苗	督 奈倉 早苗	深見 一枝	加藤けい子	白石 淑子	高木美智子	高木美智子	水野あや子	高木美智子	橋本 とも	吉田 妙	小林 喜久	小 鍛 冶 観世 喜之	観世流舞囃子	
青木 治生	佐藤 綾	後藤 新藏	河村 大	河村 大	河村 大	柳原 裕子	深見 賀子	川瀬 裕子	五木田武計	五木田三郎	観世 喜之	観世 喜之	観世 喜之	橋本 鶴子	小島 芳雄	観世 喜之	観世 喜之	
(青木社中)	(高木社中)	(高木社中)	鬼頭喜太郎	鹿取 希世	鹿取 希世	鹿取 希世	佐藤千代子	佐藤千代子	片岡宗子	片岡宗子	佐藤千代子	佐藤千代子	佐藤千代子	佐藤千代子	佐藤千代子	佐藤千代子	佐藤千代子	佐藤千代子

名古屋宝生会定式能

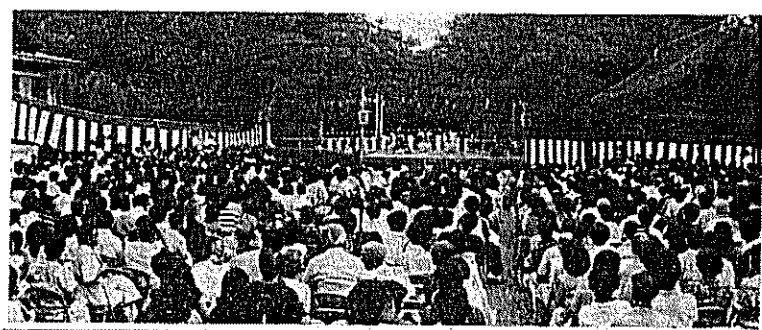
九月二十七日（日）午後一時始
熱田 神宮 能楽殿

忠	度	通	千	鵜	女	経	駒	鉄	鵜	附祝言
飯富 雅介	飯富 雅介	西村 敏也	井上松次郎	鬼頭 嘉男	花 花 花	政 政 政	馬 馬 馬	内 内 内	西村 敏也	観世 喜之
佐藤 友彦	佐藤 友彦	西村 敏也	井上松次郎	鬼頭 嘉男	花 花 花	政 政 政	馬 馬 馬	内 内 内	西村 敏也	観世 喜之
吉田 定男	吉田 定男	西村 敏也	井上松次郎	鬼頭 嘉男	花 花 花	政 政 政	馬 馬 馬	内 内 内	西村 敏也	観世 喜之

重陽会十周年記念大会

名古屋淡文会素謡会

当日券三千元
後援 中 日 新 聞



第16回名古屋薪能

1500人来会で盛会

名古屋薪能は、ことし第十六回を迎え、八月九日(日)熱田神社で催された。今回は予定の八日が降雨のため翌九日になったが、千五百名を超える来会者で会場は埋まり、多流舞囃子、金剛流、金春流、舞、宝生流能「清経」の演能熱田神社宮長谷司による火入式のもの、本山市長のメッセージが披露された。

ついで、観世流能「羽衣」狂言「太刀奪」、観世流能「土蜘蛛」など、緑につつまれた舞台はかがり火に映え、午後八時五十分盛会のうちに終了した。

執心物の両極を示す

見実「阿漕」と久馬「善知鳥」

竹尾邦太郎

いづれも三半と称する特異の名曲の一つです。「阿漕」。「善知鳥」の囃子(三男・啓次郎・総一郎)で釣竿を肩にシテ老翁(金春見実)が肩肘張って外足でずかずかといつた態に橋を運びます。それは禁漁の浦に夜々の網を引いた漁師阿漕の末路に対する憤りが全身に漲っているとも見えるのです。

地の、へ繰り返して繰り返して、で正中左右と綱を引く型にも力が溢れ、大鼓の掛声と共にバツと釣竿を離した呼吸にも躍動感があります。舞台を大きく廻って橋を運ぶ足取りには、労働に充足した気持すら感じさせ、送り笛も海原を渡る潮風のように聞えるのです。

後シテは他流のように四手綱は肩にかけず、右手にしっかりと持ちます。出漁に臨む気持がそうさせるのか、一ノ松まで一気に出るサシを細い、へ忍び忍びに引く綱の、と小さく廻って一セいを細いながら正先に出ると、四手綱を置

き、正中に退って太鼓(喜太郎)入りカケリです。両手を腰に添え、目付柱から左へ廻って橋を二ノ松まで抜ける。と、振り返って正先の四手綱を見込み、左手で黒頭を掴み上げると更に見据えます。禁漁区もものかわせて忘れてそのこと一つに精神を没入してゆく趣です。囃子に乗って舞台に戻ると、正中で左手を離し、魚を追う態に臨正へゆきます。

漁を生業とする頑健な男の日常の挙措を生きたまゝ描くことにより、逆に周囲(見所)をばらばらさせる効果が、見終ってから炙り出しのようにじんわりと浮んでくるのです。

海鳴りのような唸りと聞く低く重い地謡(地頭・高橋汎)が、シテの演技に彩りを添えます。(一時間四分・6月28日・金春会)

「善知鳥」。久馬の演出意図は子方(橋岡伸明)の出に早くも現

われず、見終りてなく腰巻モギドウなのを貪しい漁村の賤しい童を印象づけ、ウキ旅僧(欽也)の気風な着流姿も飄々と風に吹かれる趣があり、シテ老翁(久馬)の纏るような呼び掛けに一期一会の緑の濃密な気配を作ります。「これは思ひも寄らぬ事」と一度は躊躇う旅僧と、片袖干切って証に託す老翁の気持とがこの片袖に凝縮し、へ涙を添えて旅衣、と片袖挿げて二度シオルところにも、兎に角妻子への連絡の端緒をつかんだ安堵と、己が境涯への嘆きとが胸い交ぜになるのです。名残りなきない思いに駆られるシテの屈折した心象は、嶮岨な山径のイメージと重なり、へ雲や煙の、とジグザグに二ノ松へ運び、へ奥へ下ればで鳴咽を堪えるようにワキにシオルと、更に峻険を往くかにジグザグに幕に入ります。久馬の卓抜したムード作りの旨さです。

後シテは、カケリ(李信・孝一郎・総一郎)からキリにかけ、これまで蓄めていた力が一気に奔騰し、凄惨な情態を遺憾なく示します。正先。鳥に見立てた笠をテッソと打ち、橋を三ノ松に抜ける。と思を静めるように二ノ松で凝然と佇立し、気を取り直すかに杖

を両手に持つと二ノ松で高く挙げ橋をノ松を投ぐように杖の手を前に滑らせ、常座に出ると小刻みに正先へ出て笠を打ち掲げ、音高く一つ踏むと正中で胸杖します。囃子の狂舞。鳥を打つシテの心緒高進は一転して杖を捨て、正先へ走って笠を取ると、ノリ地(地頭久春)の調章に合わせ「血の雨」を避ける右左左左が、目付柱に突き当たっては最早行きどころの無い窮地に、笠を楯にするすると柱に縋って坐り込み激しさです。息もつかせぬ大胆奔放な型の連続を強烈に焼き付けると、キリの末尾は追善のため調章が変り、へ面影は蒼蒼にや残るらん、唯我笠ぞのこりける、と留めます。物狂おしく凄愴な舞台の後に、一つはつんと残された笠が象徴的です。(一時間四分・7月19日・金春準三17回恩返道善興竹会)

名古屋観劇会(主幸山本勝一師)は、十月十一日(日)午前十時から名古屋・栄楽舞舞台で秋の素謡会を開催する。素謡十番、独吟、連吟、仕舞など。(番組組面)

二井栄逸師撰集
82 能画カレンダー

八月号既報のように、本紙連載「青雅日記」の二井栄逸師撰集による昭和五十七年能画カレンダーが発行されます。能画は「高砂」「桜川」「安宅」「雲雀山」「枕草堂」「花燈」のオフセット4色刷。B-4(タテ51・5センチ×ヨコ38・0センチ)表紙本文とも7枚の美麗カレンダーです。暦が過ぎた後も額用としても永くご鑑賞頂けるよう企画されています。(特注には社名刷込みします)

昨年と同じく本紙で取り扱いますのでお申込み下さい。◎予約特価一部千円、郵送の場合送料三百五十円が加わりますので一部千四百五十円。(但し二部以上は部数により送料が通減になります。)

◎予約特価申込み期限 九月二十日(それ以後は一部千八百円になります)が、部数の都合にてお応えできない場合もありますのでご理解下さるようお願いいたします。

申込み方法 ハガキで部数明記のうえお申込み下さい。代金は振替又は切手、現金書留で結構です。

申込み先 能 楽 の 友 社

(〒464) 名古屋市千種区千種2-18-18

電話(〇五二)七三一七九八四 振替口座名古屋36393

重陽会十周年記念大会

十月十日(土)祝 午前九時始

熱田 神宮 能楽殿

連吟 竹生島	高木 政留	伊東 順
連吟 通小町	高木 政留	伊東 順
善知鳥	高木 政留	伊東 順
清経	高木 政留	伊東 順
富士太鼓	高木 政留	伊東 順
盛久	高木 政留	伊東 順
野三	高木 政留	伊東 順
玄法	高木 政留	伊東 順
花	高木 政留	伊東 順
松風	高木 政留	伊東 順
隅田川	高木 政留	伊東 順
俊寛	高木 政留	伊東 順
高砂	高木 政留	伊東 順
安宅	高木 政留	伊東 順
羽衣	高木 政留	伊東 順
天鼓	高木 政留	伊東 順
融	高木 政留	伊東 順
吉野天人	高木 政留	伊東 順
番外仕舞菊	高木 政留	伊東 順

名古屋淡文会素謡会

十月十一日(日)午前十時半始

熱田 神宮 能楽殿

通小町	日置八重子	中野 末子
丸	早瀬 智子	伊藤 さち子
夕顔	早瀬 智子	伊藤 さち子
鉢木	早瀬 智子	伊藤 さち子
独吟 俊	早瀬 智子	伊藤 さち子
求塚	早瀬 智子	伊藤 さち子
独吟 杜	早瀬 智子	伊藤 さち子
三輪	早瀬 智子	伊藤 さち子
卒都婆小町	早瀬 智子	伊藤 さち子
独吟 井	早瀬 智子	伊藤 さち子
安宅	早瀬 智子	伊藤 さち子
附祝言	早瀬 智子	伊藤 さち子

〔御来場歓迎〕
主催 名古屋 淡文会
496 津島市本町一丁目五番地
伊藤長八方
電話(〇五六七)二二〇一三

河村大 井上敬介
林光寿 帆足正規
岡谷正美
地頭 廣田泰三

同社には、兵庫県、明石市、明石市教育委員会、明石商工会議所、神戸新聞社などが後援、明石

同神社は、古来より大祭には若宮八幡社で御神輿渡御(おみこしときよ)を行なうとともに、あ

木(米本平一、米本康平両氏)観世流舞囃子「山姥」(後藤新藏氏)が出演した。

事務所 名古屋市南区元塩町一ノノ十七(加藤保彦方)
電話六二一三六五九

〔有料〕
当日券三千円
後援中 日新 新聞
内藤泰二方 電話八三二一三四四九

名古屋観衛会秋季大会

十月十一日(日) 午前十時始
名古屋市中区栄五丁目一四
栄能楽舞台

- 番外独吟 盛久クセ 山本博通
- 竹生島 武藤愛子 伊藤かずよ
- 草子洗小町 川口志満子 地頭上田みよ
- 下島貞子 安藤恵子 豊住雅子 鈴村とみ
- 草子洗小町 豊住雅子 地頭足立奈々子
- 上 中川芳子 比江島孝子 山本万有里 脇田喜美子
- 仕舞 盛クセ 田代博 川クセ 水野浩司 衣キリ 久納希秋
- 東 杉野伸江 藤井敏枝 連吟高 砂クセ 下島貞子 独吟田村 川口志満子 原田一平

- 梅 独吟雨 山田伸子 鈴木きくみ
- 花 山田伸子 太田和子 水野たづ子
- 松 伊藤秀子 駒形加津子 星野泰子
- 雲林院 近藤辰男 伊藤健一郎
- 仕舞 遊松 虫クセ 加藤鳳来
- 遊 柳キリ 加納保一
- 梅 村瀬つね 鈴木きくみ
- 独吟雨 山田伸子 太田和子 水野たづ子
- 卒都婆小町 伊藤一枝 吉田琴子 川瀬まよ子
- 藤 戸 上遠野ひな子 青柳イツエ 山中節子 山本貞賀 山本勝一
- 番外仕舞鳥追舟 山本貞賀 山本勝一
- 殺生石 山本勝一

〔御来場歓迎〕
名古屋観衛会
指導 山本勝一

近江・美濃路を訪ねる

謡曲名所めぐり

11月3日(祝)に実施

本紙では、毎年謡曲名所めぐりのバス旅行を実施しておりますが、本年は、近江、美濃路を訪ね、経元服の地・鏡の宿(鳥帽子折)・宗盛邸(熊野)・野上

の宿(「班女」・垂井・青森・赤坂(「熊坂」)・田興寺(「朝長」)などゆかりの地を回ります。おきそいあわせのうえに参加下さい。
●日時 十一月三日(祝)・文化の日
●集合 愛知文化講堂前(NHK南側)午前8時
●出発 午前8時10分
●帰着 午後6時30分(予定)
(雨天でも実施します)
●ガイド 謡曲名所の説明に加え、謡曲を謡っていただきます。
●定員 四十八人(満員になり次第締め切ります)
●※定員を越え、やむを得ないときは補助席を使用します。
(なお座席はお申込み順に前列より指定しますが、ご年配の方は優先席とすることがありますのでどうかご理解下さい)
●会費 七千五百円
(バス代、昼食代、拝観料等一切をふくみます)
●謡曲本 謡曲名所にちなみ、次の謡曲本または百番集をご持参下さい。

昭和56年9月・10月放送予定

● NHKラジオ第一放送 (毎週日曜日午前9時20分)

〔9月〕
20日(日) 宝生流「黒塚」今井泰男ほか
27日(日) 観世流「松風」井上喜久ほか

〔10月〕
4日(日) 喜宝同観 多生流「教盛」粟谷菊生ほか
11日(日) 喜宝同観 多生流「上流」同上ほか
18日(日) 喜宝同観 世世流「船弁慶」藤井久雄ほか
25日(日) 喜宝同観 世世流「船弁慶」藤井久雄ほか

● NHK・FM放送 (毎週日曜日午前7時10分)

〔9月〕
20日(日) 観世流「清経」観世元昭ほか
27日(日) 観世流「班女」梅若盛義ほか

〔10月〕
4日(日) 観世流「野小宮」武田加志ほか
11日(日) 観世流「小遊」金春欣三ほか
18日(日) 観世流「松風」橋井上喜久ほか
25日(日) 観世流「松風」橋井上喜久ほか

(放送予定につき変更のときはご了解下さい)

「養老」「鳥帽子折」「熊野」「班女」「熊坂」「朝長」
●お申し込み 会費を添えて現金書留、または振替にて左記へお申し込み下さい。
名古屋市中区千種区千種2丁目18-1
振替口座 名古屋36393
主催 能楽の友社
電話(731)7984

耳目抄

名古屋の観世左近氏
演能と福原さんのこと

八月号那古野神社能舞台・演者のくだり、片山清久(のちの観世左近、車傳、明三九)と同氏だけ演能の年(十一才)を付したのには訳があった。
実はあの頃たびたび来名された金春・金剛二流また宝生流の方々で、特に名古屋能楽史と関係の深い、名古屋の能(狂言)をかたづけられていった演者の演能名やその年月日を書き出しておく必要があると思う。左近氏をその第一番に取り上げた。金春栄治郎・光太郎・松間金太郎・本田秀男、金剛謙之助・巖(初代)に野口政吉(兼資)・松本長の諸氏に喜多六平太氏のことを、観世喜之・橋岡久太郎氏のことも忘れてはなるまい。もちろん在名諸氏のことも言うまでもない。私の先輩で一時代も二時代も前の明治・大正として昭和の愛好者の観能記にも全体と部分のかたちでつながってゆくであろう。

観世左近氏(以後左近氏と呼ばれていた)は、明治二十八年十二月の初めに明治三十九年(演能)が先きに述べた明治三十九年。これはこのいう時にいつもち出す「お能の番組」(田鍋惣太郎編)・同氏著「小鼓鼓話」・「名古屋市史」・「風俗篇・能楽の項」などによる。「番組」は欠落(大会)・特別の会など)が若干ある由きいて、その補綴をつい最近までの演能を含めて作成(第二版)に当られる直前田鍋氏はなくなられた。今その貴重な資料はどうなっているのであらう。話を元に戻そう。さて、その後の左近氏来演は次のようである。

大正二年。観世清久。翁と熊野村雨留、呉服町能楽堂(以下呉と略す)
同三年。観世元滋。千手(九月)
同四年。八島弓流(ワキ西村竜六八の形取)四・三九(道成寺(ワキ宝生新・小鼓田鍋惣太郎ほか、同・三〇、呉)同五年。井筒・石橋大獅子(赤谷村直次郎。五月、呉)同年十一月。花笠籠之伝(呉)
同七年。砦(柴田敷善進善能、二月、呉)同・十一月。神歌法会之式・望月(鬼頭八郎道善能八先代)呉)
同八年。安宅勧進帳・滝流(ワキ宝生新、幸清次郎追善能。四月、呉)
同九年。松風(ワキ中村弥三郎五月、呉)
同十年。泉清(ワキ野島信、観世清之追善能、十月、呉)前後したが、同年四月。素齋角田川(綱田川、ワキ武田宗治郎)班女。同じく呉服町。
以下大正時代で特筆したい演能もあるが、割愛して先へ。
昭和三年。観世左近(同二年、左近を名のる)望月(三月、呉)五年十月に翁(名古屋市公会堂完成・舞台披露、十日)八能楽の友五五・十一月能友(随想因連)。
同六年。恋重荷(布池町能楽堂五月)

後藤正男氏逝去

名古屋金春会・後藤正男氏は、病氣療養中のごとく、さる七月二十日、悪性貧血(白血病)のため逝去された。享年七十歳。告別式は七月二十四日、自宅で行われ、葬式は同日、自宅を名古屋市瑞穂区西ノ割町三三四。

社 18 43 一月用円

定式能、社中大会

伝統芸能公演「道成寺の芸能」として、十一月五日(木)名古屋市民会館ホールで開催される。

第三回青陽会能

十月十七日(土)午後一時始

観世会土曜定式能(三回)

十月二十四日(土)午後一時始



流元 剛行 金発 流本 世家 観宗

書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入

電話(291) 2488-9
電話(291) 3-3552
電話(231) 1999
電話(231) 113

名古屋鉄道株式会社

能楽の友

発行 能楽の友社

名古屋千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
一部 70円

題字は熱田神宮 藤田宮司筆

定式能、社中大会

10・11月の熱田能楽殿

秋の演能シーズンをはかえ、熱田神宮能楽殿を中心に各流、各会の催能がたけなわ。

定式能では、青陽会定期能(十月十七日) 観世会土曜定式能(十月二十四日) 名古屋生定式能(十一月七日・土曜日) 観世会定式能(十一月八日)の上演。
名古屋和泉会主催の和泉狂言会(十月十八日)は、ことし第三十一回目、和泉宗家の「悪太郎」三宅右近の「釣針」の公演。笛方藤田流の「藤田昭彦の会」(十一月十五日)は、ことし第三回であるが、明年十一月、故六郎兵衛追善能が予定されており、これを機に代々の家元名である六郎兵衛を名乗り「昭彦の会」は今回をもって発展的解消する。番組は鉄之丞師「清経・恋之音取」片山博太郎師「融十三段舞返」ほか「百萬」(片山

慶次郎)録音テープによる「江口」(林右衛門、田鍋惣太郎、藤田六郎兵衛)など。
社中大会では、幽花会(十月二十五日)が能「清経」(シテ村木寛茂氏) 修福会(十月三十一日)は、能「下手」(須賀孝子さん、須賀実氏)、十一月は風韻会(十一月一日)が能「巻箱」(伊藤敏子さん)半能「高砂・五段之舞」(富士道周明氏)の上演、鶴恵会(十一月十四日)は、能「七番はじめ舞囃子」仕舞など三十番、観世流水元三師の喜寿祝賀能(十一月二十二日)は、能「菊意」(原信夫氏)「羽衣」(河津清子さん)「船弁慶」(前シテ池田実智子さん、後シテ池田忠三氏)の能三番、ほか素謡「道成寺」はじめ舞囃子、仕舞などで祝賀能をかき

「加賀宝生の時間」

NHK金沢放送局は、FM(金沢)で「加賀宝生の時間」を編成。宝生流謡曲の放送を八月から開始した。明年三月まで毎月一回金曜日、午後六時から一時間。出演は金沢能楽会職員。解説を渡辺忍之助師と堀井幸代氏が担当。十月以後の放送予定は次のとおり。

十月九日「船弁慶」(田宮義男、服部恒男)「枕草子」(村井美智子、上田佐都子)十一月十三日「花筐」(岸川小太郎、島村巖)十二月十一日「唐船」(渡辺忍之助、上野友次)十一月八日「翁」(佐野正治)「高砂」(玉川博、佐々木英一)十二月十三日「八島」(島村巖、金孝孝介)十二月十二日「熊野」(山田太佐久、渡辺忍之助)

「道成寺の芸能」

五十七年度の流友大会は三月七日(日)京都・金剛能楽堂で開催、流友大会への参加申込み締切りは、ことし十一月末まで、出演は素謡連吟、独吟、仕舞とし、流友の参加が期待されている。

この大会は、まず明年五十七年度は流友大会を、五十八年度は師範大会とし交互に開催される。
名古屋市の市民芸術劇場、81は、

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

10月	17日(土)	青陽会定期能	(有料)	(番組①面)
	18日(日)	和泉狂言会	(有料)	(番組①面)
	24日(土)	観世会土曜定式能	(有料)	(番組①面)
	25日(日)	幽花会大会	(来場歓迎)	(番組②面)
	31日(土)	修福会大会	(来場歓迎)	(番組②面)
11月	1日(日)	風韻会大会	(来場歓迎)	(番組③面)
	3日(祝)	幸友会大会	(来場歓迎)	(番組③面)
	7日(土)	宝生会定式能	(有料)	(番組③面)
	8日(日)	鶴恵会定式能	(有料)	(番組④面)
	14日(土)	観世会秋の大会	(来場歓迎)	(番組④面)
	15日(日)	第3回藤田昭彦の会	(有料)	(番組④面)
	21日(土)	洗心会華心会大会	(来場歓迎)	(番組④面)
	22日(日)	水藤元三師喜寿祝賀能	(来場歓迎)	(番組④面)
	23日(祝)	邦謡会大会	(来場歓迎)	(番組④面)
	28日(土)	一福会叶石会大会	(来場歓迎)	(番組④面)
	29日(日)	観正会大会	(来場歓迎)	(番組④面)
12月	6日(日)	歳末助け合い義捐能	(有料)	(番組④面)
	12日(土)	観世会土曜定式能	(有料)	(番組④面)
	13日(日)	豊泉会大会	(有料)	(番組④面)
	20日(日)	青少年のための芸術劇場	(有料)	(番組④面)
57年1月	3日(日)	能楽協会名古屋支部開初代(関係者のみ)		
	7日(木)	学生能と狂言の会	(来場歓迎)	
	15日(祝)	名古屋清韻会能	(来場歓迎)	
	24日(日)	青陽会定期能	(有料)	
	31日(日)	和泉狂言会別会	(有料)	

(演能変更の際はご了承下さい)

第三回青陽会能楽大会

十月十七日(土)午後一時始
熱田神宮能楽殿

子方 松山 忠司
母方 前野 郁子
ツレ 高橋 昭一
須部 昭一
祖父 江藤 一
久田 敏二

能大佛供養 西村 欽也
狂言狐塚 佐藤 友彦
能巻 本田 照
今村 嘉男

NHKラジオが新番組 FM(金沢)が新番組

第二十一回和泉会

十月十八日(日)午後一時州分始
熱田神宮能楽殿

三人長者 井上礼之助
法師ケ母 井上松次郎
悪太郎 井上元秀
井杭 井上元秀
釣針 三宅 右近

附祝言 (当日券二千円)

観世会土曜定式能(三回)

十月二十四日(土)午後一時始
熱田神宮能楽殿

通小町 加賀 敏彦
素能 田中 武
能 中村 和男

栗 野宮 片山博太郎
野宮 片山博太郎
野宮 片山博太郎

清 植田隆之亮
後見 関根 修二
後見 関根 修二

船弁慶

十月二十五日(日)午後七時十分
NHK・FM放送 (毎週日曜日午前7時10分)

附祝言 (当日券三千円)

主権名古屋観世会

昭和56年10・11月放送予定

10月	18日(日)	金春流「小督」	金春欣三ほか
	25日(日)	観世流「船弁慶」	藤井久雄ほか
11月	1日(日)	観世流「玄象」	関根祥六ほか
	8日(日)	金春流「上」	同 上
	15日(日)	金春流「小督」	金春欣三ほか
	22日(日)	金春流「俊寛」	廣田隆一ほか
	29日(日)	観世流「清経」	観世元昭ほか
10月	18日(日)	観世流「遊行柳」	橋岡久馬ほか
	25日(日)	観世流「松風」	井上喜久ほか
11月	1日(日)	宝生流「葛城」	渡辺三郎ほか
	8日(日)	観世流「花」	野村四郎ほか
	15日(日)	喜多流「草子洗小町」	喜多長世ほか
	22日(日)	観世流「船弁慶」	藤井久雄ほか
	29日(日)	宝生流「山姥」	三川 泉ほか

(放送予定につき変更のときはご了承下さい)

経元服の地・鏡の宿(鳥帽子折)宗盛扇塚(熊野)野上
次の謡曲本または百番集をご持参下さい。
同四年。八島弓流(ワキ西村竜六八の考証)四・三九)道もあつた。時代の推移を感じさせ入場料のことは別記。
墨市瑞穂区西ノ割町三三四。

五月雅日記

思い草

二井栄逸

秋風にそよぐすすきの穂波。その向うに、山々の葉がやわらかい緑をえがいています。もう十月、水引草が赤い点線を描きながら、この頃になると、あちら、こちら



採取してきた、という思い草をもらいました。私は、早速写真機におさめまして、或る雑誌社から頼まれていたカットの材料にもしました。

思い草は、ハマツボ科の植物で葉緑素を失っているので、ススキやサトウキビ等に寄生して生きている植物で、茎のように見える丈夫な長い花柄の先に横向きに長い花冠をつけた姿が、いかにもキセルの雁首のように見えるので、ナンバンキセルと呼ばれています。私は思い草の古名をつかっています。

山のシテは、一の松で、五月待つ花たちばなの香を嗅げば、昔の人の袖の香をする、美しく謡います。私は数ある能の中でも好きな曲の一つで、よく謡い、又、よくかきます。

私も主君の御為に、色ある花を手折りつ、葉末に結ぶ露の御身を、残しやすると思ひ草——

色々の——

と、舞台に入り、カケリ、気持ちのよい運びがずっと続き、その爽やかさは初夏の薫風が吹きぬけるようです。

うなだれた風情が物思いを連想させたのでしよう。萬葉びとは、其の風情を歌に詠み込んでいます。

しがらき焼の花入に、すすきと生け合わせて見ますと、思い草は首をかき、遠い志摩の海をなつかしんでいるようにも見えます。

唐繪掛けの姿で幕を出る雲雀

もう一、二カ月もすれば、志摩の海岸はたには、つわぶきの黄色い花が連なり、海はつゆ草色に澄んでくることでしょう。

もの、あれも一種の大衆能、同じ性格の催しを二度つづけることに問題はないか。

それは、能三番、狂言一番が精いっぱいではなからうか。

一気の短かいままのお客にはその辺が無難なところだろう。無理に五流を揃えなくてもよいじゃないか。毎年やるのだから一年交替という手もある。

大衆能を見て

付、薪能のこと

前田満穂

一会場が文化講座に復帰したことをまず喜びたい。

一たしかに、能楽殿で大衆能は無理だ。関係者の努力、理解に依

意を表したい。

しかし、その割に入場者が多くなかった。「予想よりは多かった。」という声もあるが、われわれとしては、一ぱいとまでいかなくても、八分通りは入ってもらいたかった。大衆能だからね。まず数がなくては成功といえない。

質もだ。安値興行だからといって、質を下げては大衆能の意義がなくなる。いいものを安く、沢山の人が見てもらう、これが本来のねらいだろう。

何でもねらい通りいくものなら苦労はない。結果だけを見ての判断は酷だろう。

一別に酷なことをいっているつもりはない。関係者の努力、苦勞は重々みとめるにやぶさかでないが、いささか旧態依然たり、の感はないか。

一能四番、狂言一番、これに止

採取してきた、という思い草をもらいました。私は、早速写真機におさめまして、或る雑誌社から頼まれていたカットの材料にもしました。

思い草は、ハマツボ科の植物で葉緑素を失っているので、ススキやサトウキビ等に寄生して生きている植物で、茎のように見える丈夫な長い花柄の先に横向きに長い花冠をつけた姿が、いかにもキセルの雁首のように見えるので、ナンバンキセルと呼ばれています。私は思い草の古名をつかっています。

五月待つ花たちばなの香を嗅げば、昔の人の袖の香をする、美しく謡います。私は数ある能の中でも好きな曲の一つで、よく謡い、又、よくかきます。

私も主君の御為に、色ある花を手折りつ、葉末に結ぶ露の御身を、残しやすると思ひ草——

色々の——

と、舞台に入り、カケリ、気持ちのよい運びがずっと続き、その爽やかさは初夏の薫風が吹きぬけるようです。

名古屋幽花会秋季大会

十月二十五日(日) 午前十時始
熱田 神宮 能楽殿

名古屋修詠会大会

十月三十一日(土) 午前九時三十分始
熱田 神宮 能楽殿

三半竹	生島	輪	浮舟	班女	融下	松虫	葵丸	高野物	海	拍	橋保	清	鉢	恋	龍	松	船	三	附祝言	
大江 正照	宮崎 晃吉	加藤よし子	谷川 好子	長谷川宏之	牧原みどり	片山慶次郎	富田 晃	河村総一郎	河村啓次郎	河村啓次郎	河村啓次郎	河村啓次郎	山田 徳二	津田 頭雄	村川喜久子	村川喜久子	村川喜久子	村川喜久子	村川喜久子	村川喜久子
片山慶次郎	富田 晃	宮崎 晃吉	加藤よし子	谷川 好子	長谷川宏之	片山慶次郎	富田 晃	河村総一郎	河村啓次郎	河村啓次郎	河村啓次郎	山田 徳二	津田 頭雄	村川喜久子	村川喜久子	村川喜久子	村川喜久子	村川喜久子	村川喜久子	村川喜久子

葵	野	鉢	藤	盛	隅	松	千	手	玄	附祝言
加藤さち子	梅若 修一	近藤 愛子	近藤 義彦	梅若 修一	梅若 修一	梅若 修一	梅若 修一	梅若 修一	梅若 修一	梅若 修一
加藤さち子	梅若 修一	近藤 愛子	近藤 義彦	梅若 修一	梅若 修一	梅若 修一	梅若 修一	梅若 修一	梅若 修一	梅若 修一

風韻会能

十一月一日(日) 午前十時始

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋幽花会

片山慶次郎

〔御来場歓迎〕

主催 名古屋修詠会

梅若 修一

〔一面「大衆能を見て」つづき〕

一ところで舞台の出来栄は、女性ばかり登場すること。観世流に

宝生流が薪能でも大衆能でも、女性ばかり登場すること。観世流に

とをまず喜びたい。
「たしかに。能楽で、大衆能は
無理だ。関係者の努力、理解に依

【御来場歓迎】
主権 名古屋 幽 花 山 慶 次 郎 会

【御来場歓迎】
主権 名古屋 梅若三修 一

【面「大衆能を見て」つづき】
「ところで舞台の出来栄は、
「能」では「小銀治」。狂言では
「仁王」。前者は長田の鮮麗
な型と動き。後者は朴訥な井上礼
之助と、シャープな野村又三郎の
対照の妙。そうそう、狂言で思い
出したが、新能の「土蜘蛛」の
間(アノ)、子供の早打三人のやり
とりがとて楽しかった。あの邪
氣の無さ、おうらかか、大人に真
似の出来ない自然のユーモアに考
えさせられた。これが狂言の原点
ではなからうか、とね。
「文化講堂のバックの金屏風が
気になった。いまさらではないが
簡素、幽玄の能のふん囲気になじ
まない。
「金屏風は本舞台の後だけでよ
かったかも。襦袢は黒幕のまま
にして。
「その黒幕も上手の部分が広過
ぎて、後見などの出入りが目立ち
過ぎて困る。それに照明も。
「オ、い、そんなことまで云
い立てたらホール能は出来なくな
る。被風つきの仮設舞台ならお気
に召すだろうが、設備、費用など
いろんな点で、今日ではどうても
出来ぬ相談だ。
「もちろんわかってはいる。しか
し、象徴的で繊細な洗練され
切った古典能だ。ホール能のハ
ンディキャップの克服は、どんな
に神経を使っても使い過ぎること
はないと思う。
「一つ不思議でならないのは、
宝生流が新能でも大衆能でも、女
性ばかり登場すること。観世流に
次ぐ大流派、男性のシテも多士済
々と大衆能向きでないというのでは
さらさらないよ。
「不思議なことを云い出したら
これまたキリがないから止め、要
は、楽師諸氏の犠牲的協力には頭
を下げるが、また全力投球には余
裕がありそうなきがすること。な
にかひとつ、もうひとつひねりして
欲しいこと。
「いつてウルトラCが、そう
簡単に出来るものでもないし。な
んなら演目の解説でもない、装束
つけの実演でもいい、金や手間を
大してかけずやれる企画はいく
らあろうか。ちよっとお仲間うち
で話し合っ、時間のやりくりを
つけていただければすむことだ。
「それを余計なお世話のものよ
うに考えるのは間違いだ。新能で
も火入れ式や市長の挨拶がある。
これがどれだけ全体の演出効果を
あげているのか。
「「ただけは開かれん」試行錯
誤を恐れずにやってみることだ
ね。もうこれより手はない、など
と簡単にあきらめちゃいけない。
平凡でも月並みでも、やらぬより
はましだ。
「大衆とともに、時代とともに
進む大衆能、そういう印象だけで
も与えていただけると嬉しいね。
姿音多助。(9月6日、愛知文化
講堂)

名古屋新能



能「羽衣」

能「土蜘蛛」の間狂言

風韻会能

十一月一日(日)午前十時始
熱田神宮能楽殿

Table listing performers and roles for the 'Fūryū Kai' event. Columns include names like 山田富美, 伊藤純子, 高田みね子, etc., and their respective roles.

幸友会秋の会

十一月三日(祝)午前十時始
熱田神宮能楽殿

名古屋宝生会定式能

十一月七日(土)午後一時始
熱田神宮能楽殿

Table listing performers and roles for the 'Kōyū Kai' and 'Nagoya Hōshō Kai' events.

野宮

大坪十喜雄
西村欽也
福井啓次郎
藤田昭彦

枕慈童

立石澄雄
西村欽也
福井啓次郎
森本重一

観世会定式能(五回)

十一月八日(日)十二時半始
熱田神宮能楽殿

Table listing performers and roles for the 'Kansei Kai' event.

猶惠会秋の大会

十一月十四日(土)午前十時始

Table listing names and roles for the '猶惠会秋の大会' event, including categories like 菊、紅、東、井、清、紅、葉、北、熱、田、神、宮、能、楽、殿.

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ!

舞姿の勉強と記念に是非どうぞ!

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。

お問い合わせは ビデオプロダクション 西川企画

TEL <0582> 63-9869 岐阜市北野町20-2

太加志の情に優る知の「花筐」

竹尾邦太郎

妻は白二枚・着付は白摺... 唐織は透垣に秋草文様の段... 全体に鈍い金色に...

三ノ松でワキツレ(立石澄雄)... から文と能を受けたシテは、へあ... 御名残惜しや、と高くシオリ...

菊 慈童 日下すみ子

Table listing names and roles for the '菊 慈童' event, including categories like 菊、紅、東、井、清、紅、葉、北、熱、田、神、宮、能、楽、殿.

故 田鍋惣一郎を偲ぶ

第三回 藤田昭彦の会

十一月十五日(日)十二時半始

Table listing names and roles for the '藤田昭彦の会' event, including categories like 菊、紅、東、井、清、紅、葉、北、熱、田、神、宮、能、楽、殿.

水雲元三喜寿祝賀

水雲会能楽会

十一月二十二日(日)午前十時始

Table listing names and roles for the '水雲会能楽会' event, including categories like 菊、紅、東、井、清、紅、葉、北、熱、田、神、宮、能、楽、殿.

素蘭花 伊藤 志麻

能 菊 慈童 飯田 雅介

遊舞之楽

Table listing names and roles for the '能 菊 慈童' event, including categories like 菊、紅、東、井、清、紅、葉、北、熱、田、神、宮、能、楽、殿.

能 船 弁慶

卒都婆小町

八段之舞

Table listing names and roles for the '能 船 弁慶' event, including categories like 菊、紅、東、井、清、紅、葉、北、熱、田、神、宮、能、楽、殿.

歳末助 名古屋洗心会華心会大会

十一月二十一日(土)午前九時半始

河安中 岩江村 野山 日田 野山 三男 三男

十月の舞台から

和泉会と観世会土曜定式能

竹尾邦太郎

「三人長者」(礼之助・友彦・弘之)は、21回を数える和泉会初演...

「悪太郎」金と紺の市松文様のきらびやかな厚板を...

「船弁慶」シテ清和のけれん味のなほ若き溢れる舞台...

「井杭」融の井杭、友彦の算置。親子演ずる。何某に弘之...

「釣針」大勢物は騒々しいのが上です。就中シテが騒々しいはしゃぐのが面白く思われます...

野村狂言の会名古屋公演

十二月五日(土)午後二時開演

Table listing plays and performers for the Nishimura Kyogen Kai performance, including 'Kamikida', 'Kikaku', and 'Kikaku'.

歳末助け合い 義捐金募集能(第十三回)

十二月六日(日)午前十時始

Table listing performers and roles for the year-end fundraising performance, including 'Kamikida', 'Kikaku', and 'Kikaku'.

Table listing performers and roles for the year-end fundraising performance, including 'Kamikida', 'Kikaku', and 'Kikaku'.

観世会土曜定式能(四回)

十二月十二日(土)午後一時始

Table listing plays and performers for the Kanzei-e performance, including 'Kamikida', 'Kikaku', and 'Kikaku'.

吉野天人

飯富 雅介

Table listing performers and roles for the performance 'Yoshino Tenjin'.

殺生石

西村 欽也

Table listing performers and roles for the performance 'Shōshō Ishi'.

御来場歓迎

十二月十二日(土)午後一時始

Table listing performers and roles for the performance 'Kamikida', 'Kikaku', and 'Kikaku'.

能 葛

野村 四郎

Table listing performers and roles for the performance 'Kamikida', 'Kikaku', and 'Kikaku'.

附祝言

主 能楽協会名古屋支部

Table listing performers and roles for the performance 'Kamikida', 'Kikaku', and 'Kikaku'.

昭和56年11月・12月放送予定 NHKラジオ第一放送 (毎週日曜日午前9時20分)

なほ次郎 (昭和五十七年度) は 一月十九日(火)観世会土曜定式能による...

「名古屋和泉会」雑感

前田満穂

A きょうはうんとおしゃべりをさせてもらおうと思うが、どうあろう。

B 結構々々。大いにやらせりませ。

A おしゃべりはおしゃべりで、余計なおしゃべりが、よいから、本筋のおしゃべりをなさります。

B 余計なおしゃべりは困ります。本筋のおしゃべりをなさります。

A 本筋はながながとしゃべるほどのものはない。「法師ケ母」と「悪太郎」が上出来、面白かった。とそれだけでござる。

B いや、上出来、面白いだけではすまぬ。もっと云え、もっと云え。

A 余計なおしゃべりをさせてもらう手前、少しばかり云おうか。「法師ケ母」は稀曲だが「金岡」に似たものだけに「金岡」の威勢に押されて影が薄くなったものか。われわれから見ると、「金岡」ほどのものはないだけに親しみ易い。淡彩の味が井上松次郎の

持た味にビタリとはまった。酔って妻(佐藤友彦)を離縁する前場と、もの狂いめいた後場とのつながりが、不自然と云えば云えるが、「金岡」だった同然で、見なれていながら感じないだけ。

B 能のパロディーと云わば云え、そこに狂言独自の面白味はあらず、パロディーを非難がましいと云われるとすれば、狂言役者にも責任があるかも。

A 「悪太郎」の和泉元秀、これも「法師ケ母」同様、人と雲の一致が成功のモト、それに見所に納得させずにおかぬ、という強引なまでの雲の気迫……

B いや、あはれた、あはれた。薙刀を伯父(松次郎)につきつけるところなど、見る方がヒヤリとした。

A 雲と薙刀のさばき工合い。ヒヤリとさせながら切り抜けるところが妙だ。先代狼之助の狼翁がこの「悪太郎」で当りをとったことを思い出す。彼も壮年時は朝氣満々の熱血漢、それだけに悪太郎のやんちゃぶりが見事で、狂言よりも面白かったような気がしていたが、こんどの「悪太郎」で、やはり本ものにはかなわないと悟った。

B イミテーションが本ものより良いはずはないから。狂言からとった歌舞伎舞踊は「棒しばり」「身替座禅」「花子」「二人持」「茶壺」「茶壺」「茶壺」等々数えるにいとま無いほどだが、一、二の例外を除いては全部本ものにはかなわない。

A いや、これは趣味の問題でね。簡素、質朴、古雅な味を好むか、愛嬌をたっぷり、色気たっぷり歌舞伎の味を好むか、人によりりけりで一概には云えないが、歌舞伎は歌舞伎本来の芝居をやった方がいいのだ。それなら能も狂言も太刀打ち出来ない。なまじ人真似。

B 人真似はないだろう。余計なおしゃべりはまだ早いぞ。本筋へもどれ。

A 本筋のおしゃべりは、おまけまでつけてしまったつもりだ。

B どう致しまして。「三人長者」「井伏」「釣針」のこつて

A いずれも無難な出来という

ところだろう。「釣針」(三宅右近)はいま少しカラリとしたふん囲気が欲しかったような気もするが、これがまた歌舞伎に入っている。「釣針」という人気が舞踊になつていふ。能では「勧進帳」(安宅)「紅葉狩」「舟弁慶」「土蜘蛛」などが歌舞伎化されて好評の部、特に、「勧進帳」に至っては歌舞伎を代表する名狂言の随一、これこそ能より面白くという評判がどうか。

B さあ、どっちもどっち、それだけにいいところがあるんじゃないか。

A 当りさわりのない返事をしなさんな、と叱りつけたところだが、賛否論、ガクガクのやり合いは明治からあった。いかに名優九代目團十郎でも、梅若実、宝生九郎にはるか及ばず、とケナす評者もいたほどだ。もともと能の方も当時は絶後の名人揃い、ケナされても仕方があるまいが、大正、昭和と下つては、弁慶役者として一世を風靡したのが先代梅若実三郎、それ以後になるとどうだろう。歌舞伎の「勧進帳」以上の「安宅」がやれる能役者がいるだろうか。

B いまですよ、いまですよ。たんにいまですよ、それにしても、比較するのが無理な話、それぞれに

A ひと昔前までは、ヒタ面でも情が迫れば顔にあらわれるのは止むなし、という意見もあった。いまそんなことを云う人はいないんじゃないか。ヒタ面も能面も同じこと、表情を変えずに芝居をする、は結構だが、その吐き、気持がそうやすやすと表現できるものでない。ご当人は一生懸命りきむばかりで見所に通せず、ひとり合点に終ること無きしに非ず。このところ、弁慶らしい弁慶にお目にかかったことがない。いつそヒタ面のタプーを破って、富屋をにらみつけるぐらいの「芝居」をして見せてくれたら愉快だろうな。

B 余計なおしゃべり、たんのうしたか。

A もうひと言。「悪太郎」に痛めて云えば、雲と氣迫の薙刀さばき、そのギリギリのスタイルみたいなもの、それがなく面白くない。狂言でも能でもね。古典芸能だからといって型にとられ過ぎるのはどうか。身を捨ててこそ浮かむ瀬もあれ。これをリアリズムといったら、こじつけ(10月18日、熱田神宮能楽殿)

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ！
舞姿の勉強と記念に是非どうぞ！

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。

お問い合わせは ビデオプロダクション 西川企画
TEL <0582> 63-9869 岐阜市北野町20-2

壺泉会能

十二月十三日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿

三島 憲
泉 泰孝
後見 橋本 嘉夫
泉 雅一郎
赤松 清年
山本 正人
泉 朝山
山本 秀雄

花 盛
大槻 秀夫
地謡 泉 雅一郎
鶴岡 克彦
水原 元三
桑野 剛年

善知鳥 近藤 幸江
河村 総一郎
福井 啓次郎
赤松 慎友
朝山 信之
阿倍 信之

定家 西村 欽也
飯富 雅介
河村 総一郎
福井 啓次郎
藤田 昭彦

後見 大槻 秀夫
南条 秀雄
地謡 山本 正人
鶴岡 克彦
赤松 清年
山本 秀雄

附祝言
主催 壺泉会
干 前 名古屋和泉会山里町一〇三
後援 朝日新聞社

入場料(全自由席)
一般席 三千元、学生席 千五百円(階上)
入場券取扱所 泉 嘉夫方(〇五二)八三三三、一八五、近藤 幸江方(〇五二)二二二五、二九、三島憲方(〇五二)七八一四、一三三
熱田神宮能楽殿(〇五二)六七一一、二九一二
市内各プレイガイド

名古屋青少年ための芸術劇場 能・狂言

十二月二十日(日)
午前十時
午後二時
二回公演
熱田神宮能楽殿

第一部(午前十時始)
解説 狂言について 佐藤 友彦
能について 内藤 泰二
狂言 井上松次郎
井上礼之助

黒塚 西村 欽也
飯富 雅介
後見 赤松 知子
地謡 前田 久米
中岡 義金
赤松 知子
山本 知男

第二部(午後二時始)
解説 狂言について 佐藤 友彦
能について 内藤 泰二
狂言 井上松次郎
井上礼之助

鼻取相撲 野村又三郎
佐藤 友彦
井上礼之助

黒塚 西村 欽也
飯富 雅介
河村 亮
山本 知男

附祝言
主催 名古屋教育委員会
能楽協会名古屋支部

入場券 五百円
市内各プレイガイドにて発売

流元 剛行 金発 流本 世宗 観宗

書店 檜

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話 (291) 2488-9
振替東京 3-3 552
電話 (231) 1990
振替京都 113

〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入

割烹・小料理 城

●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10)
電話 241-0248
●喫茶・グリル(愛労野地下ビル)
電話 731-1128

吉田 定男
榎原 司忠
森本 重一
三男

第27回中日五流能

「皇界」小書白頭(シテ喜多長世)
大感流狂言「磁石」(山本東次)

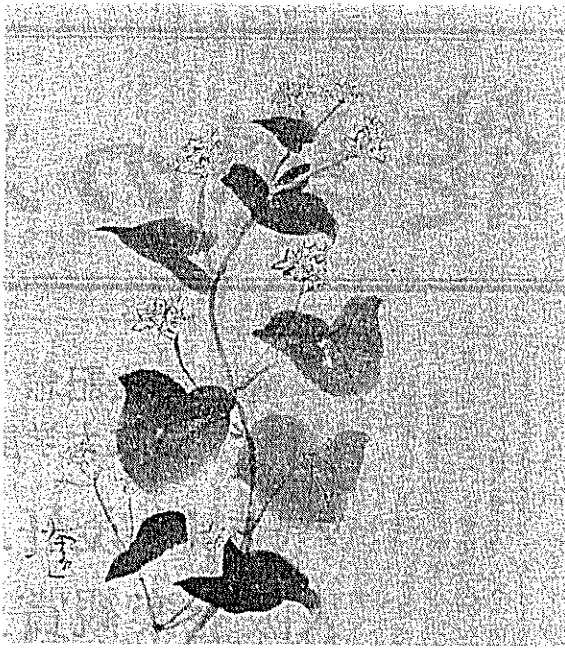
演能案内

経 正 長谷川 実
富士道周明
三男

五月雅日記

蕎麦の花

二井栄逸



そばの美味い頃である。カケはあまり好まないが、ザルの方は私の大好物の一つである。そばのほんとうに美味しいのは晩秋と初冬のさかい目だといふ。秋そばの出来たての粉をつかうからであらう。時雨の音をききながら、手打

ちの新そばをするのは私の性に合っているようだ。サササと落葉する夜は尚良い。そんな夜は、付汁のわさびやねぎの香りまでが舌にしみ通るような気がする。私ははたかなくせがあつて笑われるかも知れないが熱

信州そば、と、よく言われるのは、やはり、戸隠高原のような山村で作られるそばだから、美味しいのではないだろうか。山形のそばも、信州に劣らず美味しいといふが私はまだ食したことがない。私は、新城へ毎月お稽古に行くが一つ楽しみがあるので苦にならない。

秋の叙勳

ワキ方 宝生流 宝生 弥一氏
観世流 シテ方 山階 信弘氏
大蔵流 狂言方 善竹忠一郎氏

文化の日十一月三日に恒例の秋の叙勳が発表されたが、能楽界では、ワキ方宝生流・宝生弥一氏が勲四等旭日小綬章、観世流シテ方・山階信弘氏、大蔵流狂言方・善竹忠一郎氏がそれぞれ勲五等双光旭日章を授けられた。

勲四等旭日小綬章

ワキ方宝生流 宝生弥一氏

明治四十一年七月松山市生れ。

大正八年宝生新に師事。同年「小

勲五等双光旭日章

観世流シテ方 山階信弘氏

明治四十三年三月観世流シテ方

57年度 宝生会定式能

山本定期能

阿 百 萬 松浦信一郎
濱 波多野 晋

耳目抄

放送。一月「翁」(観世元正・野村万)

シオ邦楽の鑑賞(昭二五)日本放送出版協会。絶版か)のお世話に戸の意味も理解した。角田川の印

重要無形文化財

第二十七回 中日五流能

昭和五十七年三月二十八日(日)

名古屋 中日 劇場

第一部 (午前十時)

能(剛) 枕 慈童 江崎金治郎 谷口 正喜 三島 太郎
後見 藤田 道一 地謡 竹市 幸司 松野 恭徳
東田 康文 地謡 宇野 通成 金剛 永徳
前夜之習 足利 正彦
時装 東 野村又三郎

大蔵流狂言 磁石

田 村キリ 廣田 泰三 竹市 幸司 松野 恭徳
昭 丸ヶセ 金剛 永徳 地謡 宇野 通成 金剛 永徳
後見 藤田 道一 地謡 竹市 幸司 松野 恭徳
東田 康文 地謡 宇野 通成 金剛 永徳

能(観) 楊貴妃

観世 元昭 西村 欽也 渡部 晴義 藤田 大五郎
後見 竹前 治房 加藤 武彦 武田 根太郎 清原 房
山中 義滋 高橋 武彦 武田 根太郎 清原 房
後見 上田 照也 加藤 武彦 武田 根太郎 清原 房
山中 義滋 高橋 武彦 武田 根太郎 清原 房

能(観) 花月

花 筒 橋岡 久共 須部 嘉勇
後見 長田 白頭 飯富 雅介 河村 総一郎 三島 太郎
白頭 飯富 雅介 河村 総一郎 三島 太郎

能(観) 是界

是 界 飯富 雅介 河村 総一郎 三島 太郎
後見 長田 白頭 飯富 雅介 河村 総一郎 三島 太郎
白頭 飯富 雅介 河村 総一郎 三島 太郎

能(観) 花井

花 井 筒 橋岡 久共 須部 嘉勇
後見 長田 白頭 飯富 雅介 河村 総一郎 三島 太郎
白頭 飯富 雅介 河村 総一郎 三島 太郎

能(観) 是界

是 界 飯富 雅介 河村 総一郎 三島 太郎
後見 長田 白頭 飯富 雅介 河村 総一郎 三島 太郎
白頭 飯富 雅介 河村 総一郎 三島 太郎

第二部 (午後四時)

能(観) 景 清 西村 欽也 谷口 正喜 三島 太郎
後見 武田 志房 地謡 大向 重雄 上坂 井中川 雅重
梅田 邦久 地謡 大向 重雄 上坂 井中川 雅重
小 松門之丞 返

能(観) 清

清 経ヶセ 山本 勝一 清沢 一政
後見 武田 志房 地謡 大向 重雄 上坂 井中川 雅重
梅田 邦久 地謡 大向 重雄 上坂 井中川 雅重

能(観) 熊

熊 坂 坂井 音重 加賀 秀彦
後見 武田 志房 地謡 大向 重雄 上坂 井中川 雅重
梅田 邦久 地謡 大向 重雄 上坂 井中川 雅重

能(宝) 葛城

葛城 村山 弘 渡部 晴義 藤田 大五郎
後見 内藤 泰二 地謡 加藤 武彦 武田 根太郎 清原 房
内藤 泰二 地謡 加藤 武彦 武田 根太郎 清原 房

能(春) 難波

難波 本田 光洋 廣瀬 瑞弘
後見 内藤 泰二 地謡 加藤 武彦 武田 根太郎 清原 房
内藤 泰二 地謡 加藤 武彦 武田 根太郎 清原 房

能(春) 松風

松風 金春 欣三 高橋 武彦
後見 内藤 泰二 地謡 加藤 武彦 武田 根太郎 清原 房
内藤 泰二 地謡 加藤 武彦 武田 根太郎 清原 房

能(春) 玉之段

玉之段 本間 英孝 内藤 泰二
後見 内藤 泰二 地謡 加藤 武彦 武田 根太郎 清原 房
内藤 泰二 地謡 加藤 武彦 武田 根太郎 清原 房

能(剛) 船弁慶

船弁慶 藤本 幸治 河村 総一郎 三島 太郎
後見 横山 欣三 地謡 林村 恒三 高橋 武彦
横山 欣三 地謡 林村 恒三 高橋 武彦

附祝言 主催 中日新聞本社

十一月の舞台から

照也「松風」と喜之「邯鄲」

竹尾邦太郎

「松風」・群青色無地熨斗目・緑色玉置水衣・同系色角帽子のワキ僧(欽也)が名宣笛(三男)で出る...

地(嘉久・秀雄)へ寄せては帰るかたを波、でシテがツツと左足を出してスツと引くと...

能友随想

一めでたいこと・悲しいこと

今年もカレンダーを一枚(十二月)残すことになった。松書店の能譜は自然居士の写真(十一月、二月)である...

めでたいこと、十一月、松村博司博士(中世文学・染花物語)...

表現に具所は翻弄されて、夢幻の情調に浸れなかつた様子は残りませんが、それだけにキリの空漠とした道る瀬なきが心に残ります。

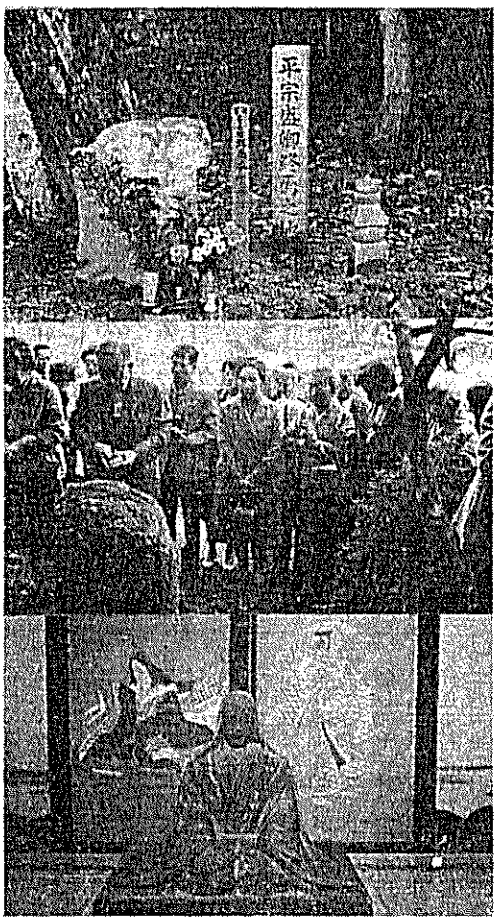
「邯鄲」昨今あまり見られなくなつた「人生如何に生くべきか」に類する当時のインテリゲンチヤア(喜之)の旅中日の虚実をとりえて感慨がありませう...

九月八日湯川秀樹博士が永眠された。湯川さんはわが恩師谷川徹三先生と「世界の平和・人類の幸福」に大努力をされた...

秋の近江、西濃路を訪ねる

能楽の友・謡曲名所めぐり

能楽の友社では、さる十一月三日、近江、西濃の謡曲名所めぐり旅行会を催し、源平のゆかりと「班女」の野上などを訪ねました。



(写真) ①平宗盛御廟前②お詣りする旅行会一行③班女の像と画屏風

料理 あつた 菜軒. 本店 熱田区神戸町三四 電話(671)8686. 本館 熱田区新宮坂町一 電話(682)5598(代表)

流元 金剛 世宗 観家. 檜書店. 〒101 東京都千代田区神田小川町2-1. 〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入

城. 割烹・小料理. 熱田神宮能楽殿喫茶部. 住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248

目生きた設備を誇る日進堂. メガネ調整設備は、正しいメガネ・快適なメガネづくりの根本です。日進堂は視力測定・メガネ調整用の諸設備はもろろんのこと、必要ときには数分でピックアップできる...